

クロスロード

2023

別冊



JICA海外協力隊に参加する人はどんな人？

二本松青年海外協力隊訓練所に行ってきました！

Q&Aで不安や疑問を払拭！ JICA海外協力隊ガイド

応募しやすい職種5選

「JICA海外協力隊グローバルプログラム（派遣前型）」の魅力

選考の流れ

選考試験ではここを見る！

応募までのTo-Doリスト

健康審査に関する注意事項



JICA海外協力隊派遣実績国 (2022年12月末現在)

98カ国で累計55000人以上の協力隊員が活動しています。

●は現在、隊員が活動中の国 ●は隊員が派遣されていた国



派遣国別 (派遣中)

■ 中東地域

国名	一般	シニア
エジプト	18	
チュニジア	14	
モロッコ	2	
ヨルダン	22	1

■ アフリカ地域

国名	一般	シニア
ウガンダ	28	1
ガーナ	30	
ガボン	12	2
カメルーン	20	1
ケニア	27	
ザンビア	5	
ジブチ	3	
ジンバブエ	11	
セネガル	3	
ナミビア	9	
ベナン	5	
ボツワナ	12	1
マダガスカル	28	
マラウイ	20	
南アフリカ共和国	8	1
モザンビーク	12	1
ルワンダ	43	

■ 合計

	一般	シニア	日系一般	日系シニア	小計
派遣中 (男性/女性)	656 (271/385)	43 (32/11)	17 (3/14)	3 (2/1)	719 (308/411)
累計 (男性/女性)	46,496 (24,601/21,895)	6,605 (5,334/1,271)	1,561 (601/960)	550 (254/296)	55,212 (30,790/24,422)

■ 欧州地域

国名	一般	シニア
セルビア	7	

■ アジア地域

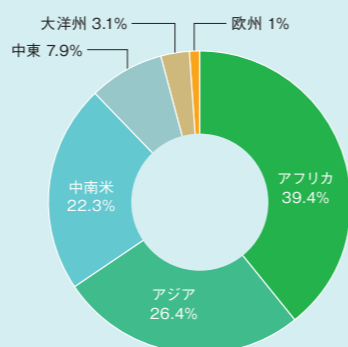
国名	一般	シニア
インド	14	
インドネシア	6	
ウズベキスタン	7	2
カンボジア	27	
キルギス	6	
スリランカ	5	
タイ	17	3
タジキスタン	16	1
フィリピン	2	
ブータン	20	5
ベトナム	35	
マレーシア	10	4
モンゴル	4	
ラオス	18	4

■ 大洋州地域

国名	一般	シニア
ソロモン	1	
パラオ	16	3
フィジー	1	1

■ 中南米地域

国名	一般	シニア	日系一般	日系シニア
アルゼンチン				2
ウルグアイ		1		
エクアドル	7			
エルサルバドル	7			
キューバ		1		
グアテマラ	18	1		
コスタリカ	5			
コロンビア	4			
ジャマイカ	1			
セントルシア	9			
チリ	4	1		
ドミニカ共和国	16		6	
ニカラグア	3	2		
パナマ	1			
パラグアイ	17	2	1	
ブラジル			9	1
ペルー	3			
ボリビア	16	1	1	
ホンジュラス	3			
メキシコ	2	2		

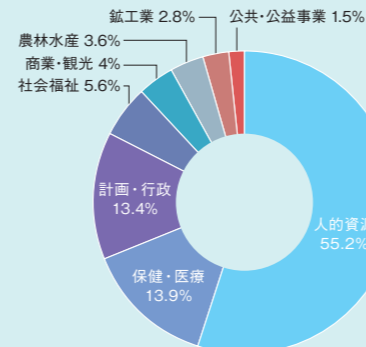


地域別派遣人数の割合

※割合は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100となりません。

分野別 (派遣中)

分野名	一般	シニア	日系一般	日系シニア	合計
計画・行政	91	4	1		96
公共・公益事業	10	1			11
農林水産	22	4			26
鉱工業	12	8			20
エネルギー					0
商業・観光	23	6			29
人的資源	366	16	12	3	397
保健・医療	92	4	4		100
社会福祉	40				40



分野別派遣人数の割合

クロスロード

Contents

- 02-03 派遣実績国一覧/Contents
- 04-09 JICA海外協力隊に参加する人はどんな人?
▶Case1,2,3
- 10-13 二本松青年海外協力隊 訓練所に行ってきました!
- 14-15 派遣前プログラム 「JICA海外協力隊グローバルプログラム (派遣前型)」の魅力
- 16-19 Q&Aで不安や疑問を払拭! JICA海外協力隊ガイド
- 20-21 応募しやすい職種5選
- 22-23 選考の流れ&選考担当者から皆さんへ
- 24 JICA海外協力隊に求められる力とは? 選考試験ではここを見る!
- 25 応募までしておきたいことをチェック! To-Doリスト
- 26 健康審査に関する注意事項
- 27-35 JICA海外協力隊に参加する人はどんな人?
▶Case4,5,6,7
- 36 JICA海外協力隊に関するお問い合わせ先



表紙によせて

マダガスカルの児童育成施設に集まる子どもたちは、アニメや漫画を通じて日本語や日本の歌に興味をもって、写真はJ-POPを伴奏に、私が振り付けたダンスを踊っているところ。現地ではいつも個性を發揮して自由に踊るのですが、同じ振り付けを皆で踊ることも新鮮だったようで、楽しんでくれました。小林三恵さん(マダガスカル/青年活動/2016年度4次隊・千葉県出身) 写真提供=久野真一/JICA

【凡例】

JICA海外協力隊の隊員(経験者を含む)については、次のように表記しています。

国際協力さん(ケニア/環境教育/2019年度1次隊)			
氏名	派遣国	職種	隊次

「JICA海外協力隊」には「青年海外協力隊」「海外協力隊」「シニア海外協力隊」「日系社会青年海外協力隊」「日系社会海外協力隊」「日系社会シニア海外協力隊」があります。

『クロスロード』(通常号)は、JICA海外協力隊が活動・生活を円滑に行うための実践的な情報、および帰国後の進路開拓や社会還元をする際の情報を提供する雑誌で、年に10回発行しています。



編集・発行: 独立行政法人国際協力機構 青年海外協力隊事務局

CASE
1

社内のボランティア休職制度で現職参加
復帰した職場が国際化に向かう中、
活動で培った経験を生かしたい

現職参加した松永 紘さんの場合 ▶ JICA海外協力隊コンピュータ技術隊員としてモザンビークへ
▶ 復職を経て、JICA海外協力隊（民間連携）でコンピュータ技術隊員としてベトナムへ
▶ 帰国後：物事の見方や外国籍の社員への接し方が変化



モザンビークで同僚と共に



モザンビークでのコンピュータシステムの管理

「それまでの人生で積み重ねてきた常識が当たり前ではないことを、実体験として知ることができました」と話すのは、職場のボランティア休職制度を利用してJICA海外協力隊に参加した松永 紘さん。今は復職し、国内で業務に励んでいる。

松永さんが勤務するのはITシステム開発を手がける株式会社ゼネット。元協力隊員でもある同社の四元一弘社長（バングラデシュ／養殖／1981年度4次隊）が、社員の見聞を広める目的で、在籍したまま1年以上の海外ボランティア経験を認める休職制度を設けた。社内に協力隊経験者は数人いたが、制度を使って現職参加するのは松永さんが初めてだった。「当時30歳を前にして仕事にも慣れてきていましたが、日本の人口減少など社会の変化が叫ばれる中、今の仕事を先々まで続

けられるかとの危機感と、価値観の異なる世界を知りたいとの思いがあり、社内制度もあるので挑戦してみようと考えました」募集職種の中にコンピュータ技術を見つけ、応募を決めた段階で社長に話して制度を利用したいと伝えた。2014年初めの合格発表から、二本松青年海外協力隊訓練所での派遣前訓練開始までには半年ほど期間があったが、「プログラム作成や社内教育、IT資産管理など多くの業務を担当していて、整理や引き継ぎは大変でした。語学の事前学習には正直手が回らず、訓練中に朝や夕方以降の自由時間でしっかり自習して取り返すよう心がけました」と振り返る。ともあれ、周りの社員の理解もあり、盛大に送り出してもらえた。

配属先はモザンビーク教育大学の情報システムを管理する部署。学内のネット

ワーク管理や変更のほか、他部署からコンピュータ関連の不具合の連絡を受けると、メンバーと一緒に対応した。

ただ、日本と大きく異なる環境に悩まされた。国内のインフラが脆弱で、トラブル時のバックアップ体制も整っていないため、「よその地域で停電があるだけで、インターネットさえ不通になることもありました」。仕事の感覚も日本とかなり違い、システムを作っても継続運用していく意識が薄かったり、担当者が代わる際の引き継ぎがなく、パスワードすらわからなくなったりしたこともある。高度なシステムより管理や保守のしやすさを優先するなど工夫しつつ、2年間の任期を全うした。

帰国して仕事に戻った松永さんだったが、数カ月後、会社からJICA海外協力隊（民間連携）^(※)でのベトナム派遣を打診

応募者への
Message

IT分野では、「第一線を離れると先端技術についていけなくなる」ともいわれますが、インターネットさえつながれば、不安はないというのが実感です。
現職参加はなじみの場所に帰れる安心感があるので、興味があれば飛び込んでみると、発見や得られることは多いと思います。



まつなが ひろし
松永 紘さん

モザンビーク／コンピュータ技術／
2014年度3次隊、
ベトナム／コンピュータ技術／
2018年度2次隊・熊本県出身

新卒で株式会社ゼネットへ入社する際、同社にボランティア休職制度があることを知った。2015年1月から制度を利用してモザンビークに赴任。帰国・復職を経て18年10月からはJICA海外協力隊（民間連携）でベトナムへ。復職後、現在は滋賀県からリモート勤務をし、システム事業部のリーダーとして若手の指導も担当する。

された。将来的な現地人材の確保につなげたい会社の考えと、「アフリカとアジアの違いを体験したい」という松永さんの思いが合致し、参加が決まった。モザンビークでの経験から「ネットさえつながれば、最新の技術についていけなくなることはない」との実感もあった。そうして18年10月に配属されたのはベトナム南部、ニャチャンの州立大学。インフラに問題もなく、活動に集中できた。今回は学生にIT知識を教えたりもしていたが、コロナ禍で任期が短縮され、20年3月に帰国・復職した。

現職での協力隊参加について松永さんは、「帰る場所があり、慣れ親しんだ環境に戻ることができるのはよかった」と話す。2度の派遣のいずれも帰国後1週間余りで職場に戻ったが、派遣前と同じような部署で、帰国前に復職後の業務の事前共有があったことも復職の助けとなった。「日本の職場がどんな雰囲気か忘れていて、きちんと振る舞わなければとの強迫観

念じみた感覚もあり、むしろ派遣前よりも勤怠面がしっかりしました」

日本の常識の通じない海外での活動を経て、仕事の中で「当たり前、という決めつけをしなくなったと話す松永さん。以前は自分のやり方を押し通しがちだったが、複数の見方があることを意識するようになったという。また、自身がマイノリティとして暮らす感覚を知り、外国籍の社員に配慮する意識も強まった。

「私の場合、外国語では講義形式の説明を理解するのが大変だという経験をしたので、弊社の外国籍の人にも同じような困難がないか気にかけています」

IT分野では日々の仕事が国際化に向かっていているという。「開発を依頼されるシステムが日本人向けとは限らなくなると思いますし、業務のリモート化が進めば海外の人とも働くようになるでしょう」。松永さんが自分の経験を生かせる場面は一層増えていきそうだ。



ベトナムで学生に授業する松永さん

職種ガイド
コンピュータ技術

計画・行政分野の職種の一つで、IT技術者の養成に携わる「人材育成型」、省庁などで公共サービス関連のシステム開発を支える「情報システム開発型」、IT活用支援やセキュリティ対策などIT環境の整備を担う「IT環境整備型」といった活動形態がある。松永さんは2度の派遣で共に大学で活動し、1度目は学内のネットワーク管理・整備を行い、2度目は同様の活動をしつつ、学生への授業も実施した。

任地メモ

モザンビークとベトナムのいずれも、食事は口に合いました。モザンビークでは牛・豚・鶏肉類、海産物など何でもあり、煮込みやカレー、フェジョアードという豆料理など料理法もさまざま。掘っ立て小屋のような食堂で食べてもおいしいほどで、お薦めはトコサードという、鶏肉を乾燥マンゴーで味つけた酸味のある料理です。ベトナムではバインセオというお好み焼きのような料理が気に入っていて、フォーもよく食べました。

安全管理に関して、モザンビークではスリや引ったくりが多く、速く歩く心がけたり、背後に人が立つのを避けたりと注意していました。日本人・現地人を問わず、知り合いが危ないと言う場所は、大抵実際に危ないので、言うことを聞いたほうがよいですね。



モザンビークではエビなどの海産物も豊富だった

牛肉を煮込んだモザンビーク料理

※JICA海外協力隊（民間連携）…JICAと企業の合意の下、社員を海外協力隊員として派遣するプログラム。各企業の事情に応じて派遣国や職種、派遣期間の調整ができる。

CASE
2

ライフイベントが一段落した50代前半から
30年の教員経験を役立てたいと
カンボジアの教育改善に地道に取り組む

子育て、介護などが一段落し早期退職して参加した伊藤明子さんの場合

▶ シニア海外ボランティア(※)教育行政に関わる隊員としてカンボジアへ3度派遣 ▶ 帰国後：個人でカンボジアと関わり続ける



①協力隊時代の伊藤さんの巡回先の小学校。5、6年生が一つの教室で学ぶ複式学級 ②現在の活動から。カンボジアの教員養成校で繰り下りのある引き算の教え方を説明する(2022年) ③現在の活動から。教員養成校で2022年に開催した「原爆展」。「ヒロシマのある日本に住む者の役割として、平和の大切さを伝えたい」(伊藤さん)

学生時代、ネパール山麓をトレッキング中にA型肝炎で倒れ、日本のNGOが支援するネパールの病院に助けられて帰国した伊藤明子さん。「いつか恩返しをしたい。開発途上国の役に立ちたい」と思い続けてきた。中学校の理科教師をしながら、結婚、子育て、介護といったライフイベントに一区切りがついた頃、JICA海外協力隊でシニア世代が活躍できることを知った。当初は「理科教育」の要請を探したが、グローバルフェスタJAPANのJICA海外協力隊のブースで「教育行政」という職種を紹介された。教頭や指導主事の経験がなくても応募できると聞き、背中を押されて応募した。合格を機に退職し、2006年、54歳でカンボジアに赴いた。

配属先のシェムリアップ州の北部は、ポ

ル・ポト派が1998年まで戦闘を続けた地域で、79年にポル・ポト派が降服した首都や都市部に比べ復興が大きく遅れ、再開された小学校があるのみだった。

カンボジア教育省が掲げる「就学率100%、留年・中途退学者の削減、中等教育の拡大」という目標の下、伊藤さんは「視学官」と呼ばれる教育行政官と共に州内の学校現場を巡回指導することになった。同国の義務教育は小中学校9年間。伊藤さんには、日本の中学校にあたる7～9年生の中途退学者を減らすための助言が求められた。

中学の3年間に生徒が半減する原因は小学校に問題があると見て、伊藤さんが各小学校長に生徒の追跡データを記録してもらおうと、そもそも小学校への入学が就学年齢よりも遅れる子どもが多い上に、年齢が

上がるに従い家計を助けて働くため学校を辞めるケースが増えることや、小学校1年次から2年次への進級時に落第してしまう子どもの多いことがわかった。

「授業を見ると一方的な暗記中心で、算数の足し算や引き算でさえ、その理論を暗唱させるだけのものでした。これではもの考えない子どもが育ってしまうと思いました。教員は落第する子どもがいても気にせず、教え方に問題があるとも感じない。1年生が学ぶには難しい内容だと思っていたとしても、絶対的な上下関係があり、自分から上司には伝えられない」

伊藤さんは、同僚たちに「先生方の教える力量に問題がある。教員のレベルアップに力を入れましょう」と提案し、子どもが自ら問題を解くための教材を使った教授

応募者への
Message

開発途上国ではシニア世代の方のほうが適応力に優れる面があります。派遣されて「自分の子どもの頃の地方の生活とそっくり」という人も。それは途上国の人々に寄り添う下地になります。新たな外国語を学ぶ苦労はありますが、役に立てることがたくさんあります。



伊藤明子さん

カンボジア/教育行政/
2006年度0次隊・2010年度2次隊・
2016年度3次隊、東京都出身

公立中学校の理科教師を30年務めていたが定年を待たず退職し、協力隊に参加。その後も同じ配属先に2度赴任した。現在は公立中学校で理科実験の助手を務めながら、元配属先への算数の指導法の協力やNGO法人アンコール・クライマーズ・ネットですポーツ普及の支援を行う。

法の導入に取り組んだ。

伊藤さんは2年間の任期が終わった後も、同じ配属先に2回赴任した。彼女を駆り立てたのは、長い内戦が教育にもたらした大きな負の影響だった。

2回目の派遣では広島県とJICAが実施した「カンボジア元気な学校プロジェクト」で寄せられた算数教材を活用して教授法の普及活動を行い、3回目は共に汗を流してきた配属先の同僚たちが教員研修会を学校現場に定着させる支援をしたいと参加した。

「なかなか力は及ばないし、いつも迷いながらの活動ですが、私がそばにいて、現場に本当に必要なことや、先生たちが困っていることに、この国の人たちが気づく。自分が役に立てることがあるから参加しました」

70歳の現在も仕事の傍らこの国の教育への支援活動をし、ボランティアはまさに第二の人生になっている。

その原動力は、協力隊参加で得た「筋金入りの国際協力ワーカーたちとの出会い」にあるという。任期終了後もこの国で暮らし活動をする先輩隊員や、80年代の難民問題の時代から40年近くカンボジアの人々を支援しているNGOシャンティ国際ボランティア会、対地雷被災者救済などを目的にアンコールワット国際ハーフマラソンを主催してきたハート・オブ・ゴールドの有森裕子さんたちの30年近く続く活動に出会えたことは、「今の人生の土台



伊藤さんが現在も関わり続けているシャンティ国際ボランティア会の図書館指導

になっている大きな宝物です」。

伊藤さんのそんな姿に家族も影響を受けた。長女は協力隊に2度参加し、登山好きの夫・忠男さんはシェムリアップにロッククライミング競技の普及・振興を図るNGOアンコール・クライマーズ・ネットを設立した。伊藤さんの3度目の派遣の前に忠男さんは亡くなったが、「子どもたちにスポーツを通じてフェアな精神を学んでほしい」という遺志を伊藤さんが継いで活動が続いている。

職種ガイド
教育行政・学校運営

日本の教育委員会のように現地の教育行政官と共によりよい学校運営のため、校長や教員へのアドバイスを行う。伊藤さんの場合は、教育・青年スポーツ局(後に教育局)に配属され、「就学率100%、留年・中途退学者の削減、中等教育の拡大」の実現に向け、同僚と共に州内の小学校を巡回指導。教員のレベルアップのため、教材を使った授業の実施や月1回の教員研修会の定着に向けた指導を行った。

任地メモ

カンボジアのシニア世代の同期隊員の一人は「市場で何でも手に入ると聞いたから」と機内持ち込みの鞆一つで来て、もう一人は日本から生活物資を多数持ち込み日本の生活を再現。どちらも健康上の問題なく任期を終えました。私たちが子どもの頃は「井戸水は沸き冷ましじゃなきゃ飲んじゃ駄目」「ちゃんと蚊帳の中に入って寝なさい」といったしつけを受けて育ったので、少し厳しい生活環境にもなじみやすいと思います。ただ、デング熱が怖いので、蚊取り線香をたくさんたいて過ごします。カンボジアの隊員の多くは自転車を使いますが、バイクの交通マナーが悪いので当てられてけがをしたりしないようゴム草履では乗らない、穴にはまったりすると危ないので雨が降ったら乗らないようにしていました。

カンボジアの交通状況は危険がいっぱい。地方ではヘルメットを着用せず3人乗り、4人乗りでバイクを運転する人も



伊藤さんの夫が設立したNGOアンコール・クライマーズ・ネットから独立してできた新たなクライミングジム

※2018年春募集合格者までは40～69歳を「シニア海外ボランティア」と呼称していた。

CASE
3

学生時代に得た専門性や経験が
協力隊応募の強みに
これからも弱者に寄り添った活動を

新卒で参加した平家穂乃佳さんの場合 ▶ JICA海外協力隊公衆衛生隊員としてザンビアへ
▶ 帰国後：国内で看護師として働き、インターンでアフリカ関連の活動にも参加



乳幼児健診で集まった母子



生活習慣病対策の啓発で血圧測定などを実施

大学院修士課程の2年目で協力隊に応募し、新卒でザンビアにて公衆衛生隊員として活動した平家穂乃佳さん。最初にJICA海外協力隊の存在を知ったのは、高校時代に地元出身の協力隊経験者の報告会に参加した時だ。もっとも、その時点で協力隊員になるイメージがあったわけではなく、海外への興味から参加してみたという。

その後は北海道大学医学部で看護学を専攻し、同大学院医学院へ進むと、修士課程で公衆衛生学教室に所属。大学院修了を前に、研究テーマだった公衆衛生の分野で社会に関わりたいと考え、かつ依然として海外への興味もあったため、協力隊への応募を決めた。

「公衆衛生の目的は人を健康にすることですが、研究が中心の取り組みだけでは社会還元の面が弱いと感じていました。また、研究で道内の地域コミュニティに接

していて、当事者目線や人々の暮らしへの理解が自分に足りないとの意識もあり、現地の人と暮らしを共にする協力隊が、自分のやりたいことに近いのではないかと思ったんです」

3月の大学院修了後すぐ、4月からの二本松青年海外協力隊訓練所での派遣前訓練を経て、7月にザンビアへ赴任した。約1カ月間の現地語学訓練後、配属されたのは首都ルサカから北に100km余り離れたカブエ郡のヘルスセンターだ。人口1万5000人ほどの地域を管轄し、貧困層の多い地域住民に対して外来診療や妊婦検診・母子保健活動、地域の水質検査など、地域医療と保健衛生に係るサービスを提供。10～20人の医療スタッフが所属し、その他、住民から成るボランティアたちも運営に参加していた。

平家さんへの要請はセンターの既存業務の改善だった。2代目隊員だったので周

囲の認知があり、活動に入りやすかった一方、仕事の煩雑さに苦労した。「日々の作業は行き当たりばったり感があり、外部の寄付団体との連携も統一されておらず、全体の動きの理解が困難でした」。極力多くの人の仕事に同伴したり声かけをしたりして業務の把握に努め、特に求められていた5Sの啓発などに着手。前任の隊員は平家さんと異なり臨床経験のある人だったが、その活動内容や今のセンターの状況、自分にできることを整理して配属先と相談、活動の方向性を定めた。

任期後半には、新プロジェクトとして、生活習慣病対策の啓発イベントを数回実施した。糖分過多な食生活や肥満の人が多い状況を目にし、赴任初期から温めていた企画だった。成人を対象に血圧・血糖値の測定やBMI計算、メタボリックシンドローム診断などを行い、必要な場合には栄養改善や大きな病院での精密検査

応募者への
Message

私の場合、大学院時代のイベント立ち上げ経験が応募時のアピールポイントになりました。応募に際して、「学生時代にこれをやり切った!」と言える強みがあるとよいかもしれません。



ひらかほのか
平家穂乃佳さん(旧姓:田中)

ザンビア/公衆衛生/
2018年度1次隊・北海道出身

大学時代に医学部で看護学を専攻し、その後進学した大学院では公衆衛生学を学ぶ。修了後の2018年7月からザンビアへ赴任。20年3月にコロナ禍で緊急帰国し、7月に日本で任期を満了した。現在は国内で看護師として働く。

の助言もした。

大学院修了後すぐに協力隊に参加し、精力的に活動した平家さん。新卒で赴くことについて、「当時は勢いもあって、不安はあまり感じていなかった」というが、大学院を経たことが自信につながったとも振り返る。

「実は学部時代にも協力隊の募集を目にしたことがありましたが、自分にはまだ専門性がなく、派遣されても役に立てないと思いました。大学院で専門性を身につけ、課外では中国の大学との交流イベントをゼロから立ち上げるなどの経験を積んだこともあり、大卒時より自信を持ってた感がありました」

帰国後の平家さんは、アフリカ日本協議会のインターンとしてアフリカについての情報発信に関わりつつ、日本国内の病院で看護師として働いている。ザンビアでの協力隊経験が直接的に現在の仕事に役立っているわけではないものの、自分



配属先の近所に住む人たちと

らしさを大切にできるようになったり、ストレス耐性が上がったりと、隊員活動を経て内面的な変化があったという。「働くフィールド自体は国内か海外かでこだわっていませんが、これからも公衆衛生や医療の分野に取り組んでいきたいです。社会的弱者やセーフティネットから漏れた人などに焦点を当てた仕事ができればよいですね」

職種ガイド

公衆衛生

保健所や医療機関、ヘルスセンターなどで、地域社会と連携して保健・衛生の向上のために活動する職種。平家さんの場合、現地で過去にJICAが実施した小児保健関連プロジェクトのフォローアップで、カブエ郡の一部地域を管轄するヘルスセンターにて子どもの成長チェックや環境衛生の改善を行うという要請だった。既存業務の改善しつつ、生活習慣病対策を啓発する新プロジェクトも実現した。

任地メモ

現地での住居は、当初ホームステイで、途中から一軒家に一人に住むようになりました。1年目の水・電力事情はよかったのですが、2年目は国全体が水不足で、断水が起きたり、水力発電ができないことによる計画停電もありました。1軒目の浴室は湯船のみ、2軒目はシャワーがありましたが、給湯機能が役に立たず、結局は別に沸かしたお湯をバケツで運んできていました。

食事に関しては自炊することが多く、現地の主食であるシマ(トウモロコシ粉を水で練った食べ物)なども作っていたほか、現地で手に入る物で日本食作りも試みました。首都の中華食材店で買った中国の味噌や酒も、味を調整すれば日本風にできました。ただ、和風だしはどうしても再現できなかったため、日本から持参すれば便利だったと思います。



①活動中に住んだ家
②現地ではまだ井戸の利用も多かった
③平家さんが自作した、シマを使った食事

二本松青年海外協力隊訓練所に行ってきました！



JICA海外協力隊に参加したいと手を挙げて合格した方は、派遣前訓練に臨むことになります。現在、訓練を行う施設は、駒ヶ根青年海外協力隊訓練所（長野県駒ヶ根市）と、今回訪ねた二本松青年海外協力隊訓練所（福島県二本松市・以下、二本松訓練所）の2カ所があります。二本松訓練所は、安達太良山の麓、磐梯朝日国立公園内に建ち、そこから眺める山々の景観は素晴らしく、施設も清潔感にあふれており、集中して訓練に励むには最高の環境でした。



朝の会

朝一番で訓練生全員が集まり、派遣国の国旗の紹介や連絡事項の伝達が行われる。左からJICA海外協力隊の旗、日本国旗、派遣国の国旗（日替わりで取材当日はルワンダ共和国）、JICAの旗。



講堂

講堂での講義は、三密（密閉・密集・密接）を避けながら充実したカリキュラムが提供されている。取材時にはオンラインで東京の講師と結び安全対策に関する講義が行われていた。

田中宏幸所長からのメッセージ



二本松青年海外協力隊訓練所
田中宏幸所長
マレーシア/養殖/
1991年度2次隊・福岡県出身

二本松訓練所は、安達太良山の麓の自然豊かな国立公園内にあり、職員も訓練生を最大限にサポートしたいという気持ちに満ちています。都会の喧騒から離れ、優しい人々に囲まれ、語学や必要な講座に励

んでほしいと思います。

ここでやっていることは、「途上国へ行くための準備」です。派遣先で、現地の言葉で挨拶をして、自分の仕事の説明をする。そして充実した活動ができるように、コミュニケーションの土台である語学はもちろん、健康管理や安全管理、異文化適応など、必要な知識を身につけるための期間です。訓練当初は不安もあるでしょうが、しっかり訓練に励み、皆が自信を持って派遣国に旅立ってほしいと思います。

私は、訓練生の方に、訓練所での出会いも大切にしてもらいたいと思っています。ここには、年代、出身地、考え方の違う方が集まっています。そうした訓練生同士の触れ合いの中で、今までの自分の知識、技

術、考え方の幅を広げていただきたい。派遣先では、今まで体験したことがないことも起こると思いますが、こうしたつき合いの中に、多くの問題解決のヒントがあるものです。

応募を考えている方に向けて言いたいのは、JICA海外協力隊は、国際協力をやりたい、でもやり方がわからないなどの不安がある方にとって、充実したサポート制度が整っている事業だということです。

行かないで後悔するよりは、一歩を踏み出してみたらいかがでしょうか。2年後には、日本で過ごしている2年間とは、全然違った密度の高い時の流れと、そこでさまざまな経験をするにより自分自身も成長することでしょう。

カリキュラム担当者へ聞く Withコロナの派遣前訓練

私たちが案内します！



野並丈朗さん
グアテマラ/感染症対策/
1999年度3次隊・千葉県出身



四方田隆聖さん
タンザニア/体育/
2019年度2次隊・千葉県出身



井上泰輔さん
ニカラグア/環境教育/
2015年度1次隊・京都府出身

コロナ禍によって訓練生同士のコミュニケーションが少なくなっている中、よりよい訓練生活を送っていただけるように、万全なサポート体制で臨んでいます。生活上で困っていることがないかや、モチベーションについて、面談を行ったり、スタッフが協力隊時代の体験談を話す機会を設けたりと工夫を重ねています。

訓練生の定員減：最大204人入れる施設で、コロナ禍前は多い時で190人弱が入所していましたが、現在は半分以下で運営しています。今年度は、一番多かった1次隊が80人、それ以外は50人前後です。
対面での訓練日数の短縮：2019年度は、二本松訓練所で70日間の訓練を行っていましたが、コロナ禍の訓練再開後は、期間

を59日間に短縮しています。来年度以降については、感染状況などを踏まえ改めて検討を行います。

オンライン授業の増加：現在、コロナ禍で密を避けるため、オンライン型授業が増加していますが、カリキュラムについては、感染状況などを踏まえながら今後も見直しが行われる予定です。

基本的なコロナ対策：訓練生は毎朝部屋を出る前に検温・体調を確認、異常があった場合は部屋を出ずに診療室の指示を仰ぎます。マスクの着用、飛沫対策、距離を取るなど、基本的な対策を実施しているほか、各教室では、換気の徹底はもちろん、二酸化炭素濃度を測る機器を設置し、基準値を超えると音で知らせる仕組みになっています。

※2022年11月14日取材当日の情報です。今後、変更になる場合があります。



語学教室

言語別に分かれて学ぶ。取材時は1クラス2～3人と少人数で学んでいた。各教室の雰囲気は和気あいあいとしていて時々笑い声も聞こえてくる。



居室

宿泊棟は4棟あり、各居室にはベッドと机とクローゼットが設置されている。



食堂

素晴らしい眺めの食堂は、各テーブルに1人ずつが座り黙食となっている。バランスを考えて和食が多い。週に1回は各国料理がメニューに登場する。



研修棟

左に延びている建物が研修棟で、各語学教室が並んでいる。二本松訓練所では英語・仏語以外にも希少言語を対象にしている。



エントランス

二本松訓練所のエントランス。天井に空と雲が描かれ、開放的な空間。エントランスと奥の資料室は、一般の方も見学が可能。



厚生棟

高地にあり見晴らしがよい二本松訓練所。左に見えるのは厚生棟で、食堂や大浴場が入っている。三角の屋根は羽ばたく鳥のクチバシをイメージ。

派遣前訓練、どんな感じですか？

訓練生インタビュー

Q 派遣前訓練も後半への折り返し地点を過ぎましたが、いかがですか？

山本さん 途上国で教育活動がしたいという夢があって参加しましたが、日々新しいことを知ることができ、楽しんで訓練に臨んでいます。特に土曜日の選択講座では、異文化におけるコミュニケーションや安全管理のことなど、各分野の専門家の講義が受けられ、学びが多くて新鮮です。

大和田さん 語学はアラビア語を学習していますが、徐々に話せる表現が増えてきて、成長していることがわかって嬉しく思っているところです。生活面では、同期たちがダンスや運動など、いろいろと企画してくれるので、それに参加したり、日曜日に近くの岳温泉に行ったりフレッシュしたり、思った以上に快適で、楽しみながら訓練させてもらっています。

Q 語学はどの程度上達しましたか？

山本さん スワヒリ語を習っていますが、簡単な会話ができるようになってきました。訓練前にもオンラインレッスンが受けられるのですが、直前まで高校で数学の教員として働いていたので、あまり受けられませんでした。だから他の方々より出遅れた状態で語学に入ったのですが、先生が丁寧にサポートしてくださって追いついてきました。授業が終わってからも、夕

気分転換は、ジムで運動をしたり、自然豊かな訓練所の周囲を散歩したりします。安達太良山への登山も紅葉がきれいで楽しかったですよ。

山本雅茂さん
ケニア／数学教育

食以外は自習時間に充てています。

大和田さん アラビア語はゼロからのスタートでしたが、訓練後半になって、教科書に載っている文法や表現は、ひととおり理解できるようになりました。少人数で先生と対面で会話ができるので、上達の近道になっていると思います。自習は宿題に1～2時間、それに加えて復習。同じクラスの人と集まって、一緒にやって教え合ったり、会話練習を試してみたりすることもあります。そうした仲間の力も大きいと思います。

Q 訓練で身についたことはありますか？

山本さん たくさんあります。訓練生はそれぞれの生活習慣を持っていて、起床時間も人それぞれ。そういう「当たり前の違い」を感じます。それは、派遣国に行ったら、より濃く感じるでしょうから、よい訓練になっていると思います。
大和田さん 安全対策の講座もたくさん受けましたが、施錠をしっかりすることなど、いろいろと身につきました。現地でケガや事故がないように、犯罪に巻き込まれたりすることなく、しっかり活動できるように、今から習慣を見直しているところです。



安全対策に関する講座では、爆弾や銃弾のよけ方、匍匐(ほふく)前進のやり方まで教わる。

Q 協力隊参加のきっかけを教えてください。

山本さん 教育が行き届いていない子どもたちに教育を届ける活動がしたいと思っています。その目標をかなえるために、現地の教育事情が自分の目にどう映るのか確かめたい。それで応募を決めました。2次試験に合格したタイミングで職場に告げたのですが、僕の前任で休

私のお気に入りの場所は、景色がきれいな屋上で、特に日の出を見るのが好き。気分転換したいときには、ランニングマシンで走ります。



大和田幸恵さん
エジプト／幼児教育

職して協力隊に参加した方がいて道が切り開かれていたこともあり、職場からは快く受け止めてもらえました。

大和田さん 短大時代に英語コミュニケーション学科で、世界情勢や貧困問題を題材に学び、世界にはいろいろな事情がある、と学習していく中で、自分にもできることがないかと考えるようになりました。短大を卒業した後、専門学校に2年間、幼稚園1年間、保育園で3年間、必要な実務経験を積みました。その間、帰国隊員と話したりして、後押しされ、2022年度春に応募しました。

Q 応募を考えている方々にメッセージをお願いします。

山本さん ここに来る方々はいろいろな経験を積まれている方が多いので、そういう方々との出会いを大切にしてほしいと思います。すべての出来事が自分の成長につながります。

大和田さん 説明会の個別相談で、「一回しかない人生だから思い切ってやったほうがいい」と背中を押されたので、皆さんにも同じ言葉を伝えたいと思います。海外派遣は人生の財産になるような経験ができると思います。



設備が充実したトレーニングルームは、学習の気分転換や、運動不足解消に使用される。

訓練生の1日のスケジュールは？

ほとんどの平日は1～5時限目までが語学授業。6、7時限目に各種講座となっている。土曜日は任意で受講する選択講座、日曜日は休日となっている。

■平日のスケジュール例(取材日の場合)

- 5:00 共用部分での自習、屋外での運動可
- 7:10 朝食
- 8:15 玄関前もしくは講堂集合 人員確認と朝の会
- 8:45 1～3時限目 語学授業 (休憩は各時間に10分)
- 11:35 昼食・昼休み
- 13:00 4・5時限目 語学授業
- 15:10 6・7時限目 海外における安全対策
- 17:00 語学自習、各種オリエンテーション、夕食
- 23:00 消灯

コレがあったほうがよかった！

訓練所に持っていくべきモノ(※)

山本さん 延長コード(コンセントが微妙な位置にあるので、養生テープ(カメモシが多くて窓の隙間から入ってきます)、消せるボールペンなど自分の勉強法に必要な文具。逆に、パンやお菓子、一般的な文房具は出張売店(右下)で購入できます。
大和田さん 食器用洗剤とスポンジ(共用のものはありません)、サンダルorクロックス(風呂上がりに靴を履くのが嫌な人は)、お風呂バッグ(脱衣かごは支給されるが自分のシャンプーなどを運ぶのに必要)。訓練所でも買えるものは、消臭剤、洗剤など。さらに文房具系は15%オフになります。美容製品、コットンとかも売店の方にお問い合わせしたら入手できました。歯ブラシなどの日用品も売っています。

語学上達のコツを教えてください 訓練所の講師にインタビュー



アラビア語
黒木靖子先生
ヨルダン/手工芸/
1994年度3次隊・千葉県出身

アラビア語には、20カ国以上で公用語となっている正則アラビア語(フスハー)と、方言(アンミーヤ)があります。現地ですることになるのはアンミーヤですが、フスハーをよく理解しておくことがベースになります。初めてアラビア語を学習する方は、まず文字を覚えることと、特有の発音である咽頭化した音をマスターすること。それにはやはりトレーニングが必要です。大切なことは、4技能のうち「聞く・話す」に重点を置きつつ、「書く・読む」も毎日実践すること。授業では、文法学習を中心に、自己紹介や発表の練習、ビンゴゲームなどのアクティビティも取り入れて、楽しく学べるように工夫しています。

一生懸命励めば、現地で使えるアラビア語が身につきます。語学の習得はスポーツをマスターすることと似ていて、練習を重ねることで上達します。スポーツでもさまざまなトレーニングが必要のように、言語の習得でも、耳口手目を使って練習することが大事です。語学はスポ根です！



黒木先生のアラビア語教室の様子。少人数で楽しく学べるように工夫されている。



インドネシア語
エディザル先生

家を作るときはまず土台を造りますが、土台が強くなければつぶれてしまう。語学も同じで、土台になる単語と文法をしっかり身につければ、スムーズに上達できます。教わった単語と文法は、声に出して読むと頭に残ります。声に出すと、目からも耳からも入るのでより覚えられます。絵とか彫刻には才能が必要ですが、外国語を学ぶことに才能はいらない。赤ちゃんが言語を覚えるのと同じように、一生懸命やっていたら、身につけられないことはない、必ずマスターできます。

入所前のeラーニングは、マスターすれば、訓練所で勉強を始める時に楽になります。退所してからも、訓練所で勉強したことをきちんと復習する。自転車に乗る練習を思い浮かべてほしい。最初は不安定でぎこちないけれど、だんだん慣れて、スムーズに走れるようになる。でもいったん自転車を止めると、また漕ぎ出すのに、時間とエネルギーが必要になります。外国語も同じで、毎日、練習を続けてください。



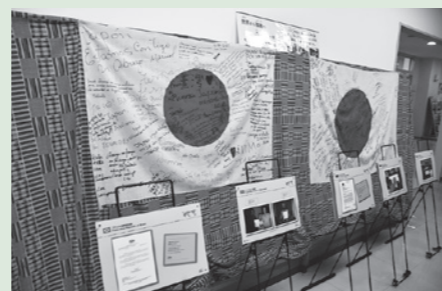
浴室

広くて清潔な共同の大浴場。他に個室のシャワー室も男女1つずつあり、こちらは早朝に運動する訓練生らのために朝5時半から利用可能。



洗濯室

合宿生活に欠かせない洗濯・乾燥機。無料で使用できるが、洗剤は各自で用意する。洗濯室の隣は室内乾燥室になっている。



応援メッセージ

二本松訓練所は、東日本大震災の際に避難所として利用された。その際に各国からの応援メッセージが寄せられ、中には、日本国旗に寄せ書きされたものもいただいた。



図書資料室

先輩隊員の報告書、語学の参考書、職種に関する書籍など訓練に重宝する資料が満載。自習に使う人も多い。



体育館

雪が多い地域だけに設備、各種スポーツ用具とも充実。基本的には、訓練生が体力維持のために自由に使ったり、運動系の訓練生の自主講座などに使われる。



出張売店(※)

週に2回、二本松駅にある加藤売店の出張売店が開かれる。「自分の子どもと同じ年代の訓練生も多く、心から応援しています。現地でも頑張ってほしいですね」とスタッフの山中さん。

※二本松訓練所には、二本松市内の商店が定期的に出張販売している。



二本松青年海外
協力隊訓練所に
行ってきました！

「JICA海外協力隊 グローカルプログラム（派遣前型）」の魅力

青年海外協力隊訓練所への入所前に、希望者が日本の一地域で約3カ月間暮らし、地域の課題解決に取り組むプログラムが2022年1月から始まりました。どのような力が身につくのか、参加を迷っている方もいるでしょう。そこで受け入れ自治体の一つ、島根県・海士町の担当者と、体験した3人にお話を伺いました。



「地元の農産物の魅力を発信するため、海士町の小学校で農産物の魅力を伝える授業に参加した廣瀬和哉さん（ホンジュラス／環境教育／2022年度4次隊予定）」

JICAボランティア事業は隊員が帰国した後の活躍支援にも力を入れている。その一つが「JICA海外協力隊グローバルプログラム（派遣前型）（以下、GP）」。日本の地域が抱える課題解決に取り組むことを希望するJICA海外協力隊合格者にOJT（On-the-Job Training／現場での実践を通じて身につける学び）を提供する。

希望者は協力隊訓練所での訓練開始前の約3カ月間、国内の一地域に住み、その地域の創生・活性化事業に参加。そこで培った地域と共存する力や課題解決能力を派遣国での協力活動に役立てつつ、協力隊終了後も各地域の活性化に貢献することが期待されている。

2022年1月の制度開始から現在までに、全国九つの自治体において延べ64人の協力隊合格者がGPに参加した。受け入れ自治体の一つである島根県海士町での具体例を見てみよう。

ここでは22年10月から12月までの3

カ月間に海士町に滞在した3名の実習生の活動内容と感想を振り返る。まずは東京都出身の篠宮 隼さん。派遣予定国はセネガルで、職種は障害児・者支援だ。地域活性化には以前から関心があり、国内外にこだわらずにゼロから何かをやってみたくとも思っていた。

篠宮さんにはGP参加の1週間前までは東京での重責があった。特別支援学級に通う小中学生たちの「日中一時支援」を行う企業で現場主任をしていたのだ。「GPは自分の職種の専門性を上げるためのプログラム内容ではありません。職場で得られる学びを棒に振ってまで参加することに不安はありました」

当時の心情を赤裸々に語る篠宮さん。海士町で選択した実習の場は三つもある。小学校の特別支援学級でのサポート、因屋城という史跡周辺の整備、北分裏山と呼ばれる地域の森を子どもと大人の遊び場や居場所に変えることだ。

後者の二つの活動は篠宮さんの専門で

ある障害児・者支援とは関わりが薄いですが、「ここに来てよかった」と篠宮さんは率直な口調で振り返る。会社員でも観光客でも地域住民でもない、GPの実習生という立場だからこそできることがあったからだ。

例えば、隠岐の豪族・村上氏の居城とされる因屋城跡に竹や雑木が生い茂ってしまっていること。関係者に話をし、伐採の許可を得る過程で、先祖代々にわたって城跡を守ってきた家の当主と出会った。この場所に光を当ててくれて嬉しい、と言ってもらえた。

地元の人には見慣れた風景になってしまっているものも外の目から見ると貴重な観光資源。その価値を再発見し、地元の人と協力して整備を進めていくことで篠宮さん自身にも学びがあった。

「一人じゃ何もできないので周りを巻き込むこと、目の前の人のために役立つように考えること、回り道に見える手順もちゃんと踏むこと。よそ者である自分が地域で活動するときに大切なポイントをたくさん学べています。セネガルでも生かせるはずですよ」

鹿児島県出身の山本あすかさんの派遣予定国は東ティモールで、職種は体育だ。コロナ禍で派遣期日が定まらないまま、新卒で鹿児島県内の乳業メーカーに22年の春に就職。その後、派遣時期が決定し、わずか半年後の退職となった。

上司からは「前向きな理由だから、いのように辞められるように協力する。2年後、うちの会社に帰ってきなよ」と応援してもらったという山本さん。訓練所に入る前にGPに参加するべきかどうかは葛藤があったが、「海外に行く前に鹿



海士町の名産「崎みかん」の収穫を手伝う山本あすかさん（東ティモール／体育／2022年度4次隊予定）。崎みかんのおいしさを普及する活動を行った



「地域の人たちの暮らしの一部となる場所、遊び場をつくる」活動の一つとして、地域で捕れた魚をさばる篠宮 隼さん（セネガル／障害児・者支援／2022年度4次隊予定）

児島以外の日本のことを知っておいたほうがいい」と判断した。

山本さんの活動内容は二つ。一つはみかん栽培が盛んな地域での活動で、滞在先の民宿から起伏の激しい峠道を自転車で片道40分間もかけて「通勤」した。

「通勤途中で見知らぬおばあちゃんに挨拶したら、「うちでコーヒーを飲んでいきなさい」と誘われました。ご主人が亡くなり、コロナ禍でお孫さんとも会えていないそうです。実習先には連絡を入れ、ご自宅で少しお話を伺いました」

もう一つの活動は篠宮さんと共に北分裏山の森を開拓すること。山本さんには「子どもから高齢者、観光客など多くの人が集まれる楽しい場所をつくる」というビジョンがあり、この地で農業を営む移住者から大きな刺激を受けたと語る。

「海士町ではグーグル検索しても発見できないような面白いことを自分で発掘できる、とおっしゃっていました。私は、こんなにワクワクする話を聞いたことがありません。GPに参加しなかったら絶対につながれなかったような人との出会い、視野が広がりました」

朴訥な雰囲気を見せて海士町で人気を博したのは廣瀬和哉さん。派遣予定国はホンジュラスで、職種は環境教育だ。

東京都出身の廣瀬さんは22年4月に大学を卒業したばかり。GPの活動先を決める際に独自の視点があった。「海士町で生まれ育った人のもとで活動する」ことだ。実際、耕作放棄地などを整備する団体を選び、農作業を手伝いながら農産物の販路拡大の手伝いも目指した。

「僕はよそ者だから受け入れてもらうのに時間がかかるだろうと思っていまし

た。でも、海士町の人はずごく優しく、雨がやんでいるのに傘を貸してくれるぐらい世話を焼いてくれます（笑）」

口下手で「背中語るタイプ」だったと自覚していた廣瀬さん。笑顔で大きな声で挨拶すること、自分が何をどうしたいのかをちゃんと言葉にすることなどを心がけたという。そして、作業を通して地域の輪の中に入っていった。この成功体験はホンジュラスでも役立つだろう。

海士町は本州からフェリーで約3時間の隠岐諸島にあり、かつては若年層の人口減少などの危機が進行していた。しかし、町役場が中心となって全国からUターンやIターンを受け入れる独自の取り組みを推進。現在は2200人ほどの人口のうち1割以上を島外からの移住者が占めるまでになっている。

町が重視しているのは移住、すなわち島に定住する人だけではない。一時的にでも滞在して島を活性化してくれる人々を「滞在人口」と呼んで推奨している。「入れ替わりでいいので常に100人から200人の若年人口が島に滞在している状態を目指しています。若い人たちが島内のいろんな現場に散らばって活動することで町が活性化するのです」。

町役場の人づくり課で課長を務める濱中香理さんによれば、GPの実習生もこの滞在人口に該当する。GP担当には、JICAケニア事務所ボランティア調整員をしていた経験もある森田瞳子さんを配置。森田さん自身、21年に奈良県から家族で海士町に移住してきたIターン組だ。自らが地域社会に入っていく過程で出会った多様な就労先も活用し、実習生が自分に合ったボランティア活動先を

GP参加時のスケジュール例

（※2023年度1次隊合格者の場合。スケジュールは募集期により異なります）

応募：2022年春募集に応募

※ウェブ応募の際にGPへの参加希望にチェックする

可否決定：2022年10月末合格

※合格者と受け入れ先自治体双方の合意を経てGP実習機関を決定

GP：2023年1月～3月末

派遣前訓練：4月～6月頃

派遣国へ：
訓練修了後1.5～3カ月後

<主なプログラム実施先>

※2022年末時点。未開催の自治体も含む

北海道士幌町、岩手県釜石市、岩手県陸前高田市、岩手県遠野市、宮城県岩沼市、群馬県甘楽町、石川県輪島市、長野県駒ヶ根市、鳥取県南部町、島根県海士町、広島県安芸太田町、熊本県球磨地域（人吉球磨地域、八代市、芦北町、玉東町）

■詳細はJICA海外協力隊のウェブサイトへ

https://www.jica.go.jp/volunteer/global_program/index.html



選べる態勢を用意している。

GP実習生たちの活動を濱中さんは高く評価している。約3カ月という期間限定だからこそ推進力がある、と。

「ここで生まれ育った僕たちが10年かかってできないようなことを彼らはやってくれます。誰も寄りつかなかった場所が子どもたちが集まれるスペースに変わったり……。『GPの〇〇くんがここまでやってくれたんだから続けよう』と、地域の人たちが活動をするきっかけにもなっています」

さまざまな人が協力すれば地域は少しずつでも着実に活性化していく。実習生にとっては、途上国でも日本でも変わらない現実を実体験して、派遣国での活動をより有意義なものにして、帰国後の進路選択の助けにもなる。わずか3カ月間のGPは「三方よし」になり得るのだ。

Q&Aで不安や疑問を払拭！ JICA海外協力隊ガイド

JICA海外協力隊に応募するにあたっての疑問や不安、心配事に、協力隊OB・OGでもある青年海外協力隊事務局の浅川純子さん(写真左:スーダン、エジプト/家政・生活改善)と脇田雄気さん(写真右:ベナン/村落開発普及員 ※現コミュニティ開発)がお答えします。



Q そもそもJICA海外協力隊は何をする人たちですか？

A JICA海外協力隊は、「青年海外協力隊」「海外協力隊」「シニア海外協力隊」「日系社会青年海外協力隊」「日系社会海外協力隊」「日系社会シニア海外協力隊」の総称であり、開発途上国で現地の人々と共に生活し、同じ目標で課題解決に貢献する活動を行っています。独立行政法人国際協力機構(JICA)が派遣国からの要請内容に基づいて、それに見合った技術や経験を持つ人を選考し、派遣しています。JICA海外協力隊は、青年海外協力隊事業として1965年に発足し、2022年12月現在までの派遣実績国の累計は98カ国です。▶派遣実績国はP2へ

派遣された国や地域の人々と共に活動することで、協力隊員が学ぶこともたくさんあります。視野が広がり、帰国後の生き方が大きく変わる隊員もいます。

Q 語学が覚えられないか心配です

A 訓練前には、自宅ですべての「語学事前学習」があり、語学教材(e-ラーニング)などを用意しています。また、二本松・駒ヶ根の両訓練所で行われる派遣前訓練の「語学授業」では、語学講師が現地で活動と生活をスムーズに始めるために必要な語学力を身につけるための授業を実施します。派遣国に赴任してから配属先に着任するまでの間にも、数週間～約1カ月にわたって「現地語学訓練」があります。より実践的な力を養う目的で、派遣前訓練で学んだ言語や現地語を学びます。

▶「語学授業」の詳細はP10へ

派遣前の日本国内だけでも100時間以上の語学授業があります。語学漬けになることで、グンと語学力がつくはずですよ！

Q 途上国で体を壊さないか、安全面も心配です

A 健康、安全、生活面のサポートもあります。派遣前には赴任にあたって必要な健康診断や、予防接種を案内・実施しています。予防接種は自己手配で接種いただくものと、訓練所で接種いただくものがあります(詳細は合格後にご案内します)。また、派遣前訓練中に、現地での活動と生活に必要な健康と安全管理に関する意識を養うための講座を実施しています。派遣中は、看護師免許取得者である「在外健康管理

員」が健康に関する相談、病気や医療に関する情報の提供、疾病発生時の対応などを、現地の医療機関や医師と連携しながら行ってくれる国も多くあります。加えて在外事務所では、「安全対策の情報提供」を行っています。現地の治安状況、犯罪防止や交通安全対策に資する情報を提供するほか、通信連絡手段の確保、必要に応じて住居の防犯対策強化なども実施しています。

▶クロスロード2022年8月号 特集「JICA健康管理室が監修 派遣国の病気・ケガ対策」もご覧ください
<https://www.jica.go.jp/volunteer/outline/publication/pamphlet/crossroad/202208/index.html>



▶クロスロード2022年11月号 特集「年末年始は特に注意！セルフディフェンスの見直しと徹底」もご覧ください
<https://www.jica.go.jp/volunteer/outline/publication/pamphlet/crossroad/202211/index.html>



課題別支援LinkedInグループで悩みも共有できる

LinkedIn(リンクトイン)は世界最大のビジネス特化型SNSです。2020年3月、新型コロナウイルスの感染拡大により、派遣中のJICA海外協力隊員が一斉帰国しました。再派遣後に先輩隊員がいない中で活動を行う協力隊員を支えられるよう、青年海外協力隊事務局では翌21年4月からリンクトインの運用を開始しました。「課題別支援LinkedInグループ」は、同じ職種の子が国や地域、隊次を超えて情報を共有したり、活動の悩みを相談したり、帰国後のキャリア形成の実現をサポート

する場などとして、活用され始めています。人数の多い職種を中心に16グループに分かれ、技術顧問や技術専門委員なども加わっているため、活動時の具体的なアドバイスも受けられます。

▶クロスロード2022年7月号 特集「活動時のお悩み解消 課題別支援LinkedInグループ徹底解剖」もご覧ください
<https://www.jica.go.jp/volunteer/outline/publication/pamphlet/crossroad/202207/index.html>



<https://www.jica.go.jp/volunteer/outline/publication/pamphlet/crossroad/index.html>



「クロスロード」は最新号もバックナンバーもJICA海外協力隊ウェブサイトにはアップされています。活動の悩み事から料理レシピまで、先輩隊員たちのノウハウが詰まっています。



Q お金のサポートはありますか？

A 訓練所までの往復交通費、派遣国の赴任・帰任にかかる旅費はJICAが負担します。現地での住居は派遣国の政府またはJICAが用意します。国や地域によっては住居に警備員が配置される場合もあります。業務連絡用に携帯電話(SIM)が貸与されます。「国内手当(※)」や「現地生活費」(派遣国での生活費で、JICAが、派遣国の住民と同等程度の生活を営むに足る金額を、物価、為替変動などを勘案の上、定めています)などの支給もあります。

(※) 支給要件に合致する場合のみ



派遣中の住まいは、ホームステイや住居シェア、一人暮らしなど、派遣される国や地域の状況によりさまざまです。

Q 仕事を辞めずに協力隊員になる人もいますが、どんな人たちですか？

A 勤務先の承諾が得られれば、現職のまま参加することが可能です。特別な制度としては、学校の教員がその身分を保持したままでかつ有給で参加できる「現職教員特別参加制度」もあります。また、所属先が組織として派遣する意味が強くなりますが、自治体職員がその身分を保持したまま参加できる「JICA海外協力隊(自治体連携)」、企業と連携してグローバル人材の育成に貢献するプログラム「JICA海外協力隊(民間連携)」などもあります。

▶詳しくはP4,P32へ

各企業のボランティア休暇制度などを利用して参加する方もいます。また、勤務先が参加者の雇用を継続することを支援する仕組みとして、勤務先に対して支給する現職参加促進費の制度もあります。

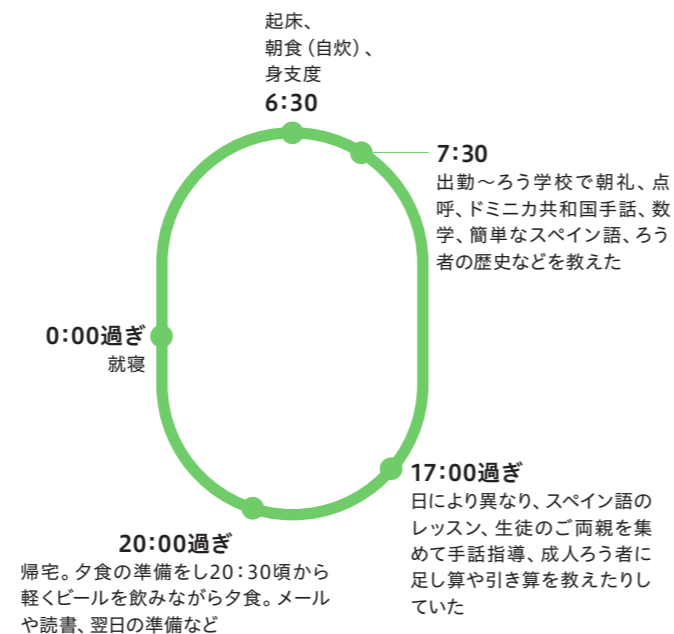


Q 派遣されている2年間に、余暇や休日、長期休暇はありますか？

A あります。活動先により、勤務時間や休日・長期休暇の日数は違い、朝7時から昼過ぎまでで活動が終了する隊員もいれば、夕方くらいまで活動が続く隊員もいます。あらかじめ申請して現地のJICA事務所の承認があれば、私費で任国内旅行や任国外旅行をすることもできます。

■平日のスケジュール例

▶P27 廣瀬芽里さん(ドミニカ共和国・青少年活動)の場合



休日には買い出しや家事をしたり、地域の人の家に招待されたり、任地が同じ隊員同士で集まったりすることもあります。

Q 帰国後の就職支援はありますか？

A 青年海外協力隊事務局では、「1. 進路開拓支援」「2. キャリア支援」「3. 進学・研修支援」を通じて帰国した皆さんをサポートしています。

派遣国での経験から、将来進みたい道がはっきりしたり、変わる隊員もいます。そんな時は進路相談カウンセラーや青年海外協力隊相談役に相談してみてください。



1. 進路開拓支援

帰国隊員を対象に、研修やセミナー、勉強会などを通じて進路開拓や協力隊経験の社会還元に関するサポートを実施しています。また、「進路相談カウンセラー」や「青年海外協力隊相談役」を全国に配置し、進路相談などのカウンセリングも行っています。

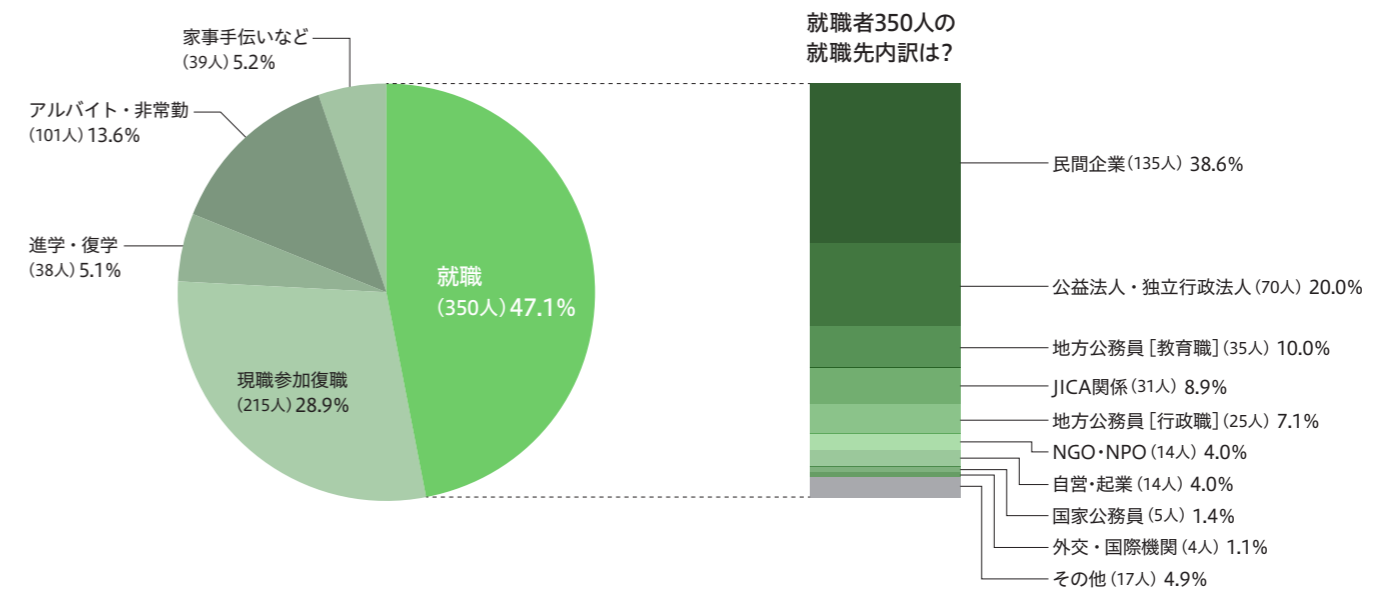
2. キャリア支援

帰国隊員の採用に関心がある地方自治体や企業と、協力隊経験者との交流会の実施や、多文化共生・地方創生に資する地方自治体・公的団体・NPOなどの求人をご紹介する「無料職業紹介事業」、国際協力分野のキャリア情報サイト「PARTNER」による求人情報の提供などを行っています。また、教員・自治体職員の特別採用枠や、JOCV枠UNV制度(JICAが国連ボランティアの派遣にかかる費用を負担する制度)も設けています。

3. 進学・研修支援

大学・大学院の特別入試制度や、国際協力人材を目指す人向けの研修制度などがあります。また、進路開拓に役立つ技術の習得、免許・資格の取得につながる学習に対して必要な経費を支援する「教育訓練手当」制度や、帰国後2年以内の帰国隊員のうち、JICA海外協力隊への参加で得た知識および経験を、国内外で生かす社会還元を促進するために、国内外の大学院への進学を志望する方および進学している方を対象とした、奨学金給付事業があります。

2019年度帰国隊員の進路状況は？(回答743人)



※2019年4月1日～20年3月31日までに帰国した青年海外協力隊および日系社会青年海外協力隊(合計919人)に対して、青年海外協力隊事務局が行ったアンケート結果より、19年4月～21年5月までに回答があった743人の進路状況を集計。

1 コミュニティ開発

住民の生活改善や収入向上、地域活性化などに貢献する

分類：計画・行政

類似職種：マーケティング、野菜栽培、観光、環境教育など

どんな職種？：地域を取り巻く状況や課題を理解し、住民と共に課題解決に取り組みます。課題が「収入向上」であれば農産物の栽培や土産物などの製造と販路拡大を、課題が「安全な水を得ること」なら井戸など給水施設の維持管理での支援や衛生教育を行ったりします。コミュニケーション能力や人をつなぐ調整能力などが求められます。

先輩の活動の一例：ラオスのウドムサイ県産業商業局販売促進課に配属され、特産品である葛製品の品質向上と販促活動を行った。技術が高い村の生産者リーダーを講師に招き、近隣の村に技術指導を実施した。



◀ 詳細はこちら

2022年4月号「この職種の先輩隊員に注目！～現場で見つけた仕事図鑑」へ

職種選びの参考に！

応募しやすい職種5選

JICA海外協力隊の職種は9つの分野に分かれ、190以上の職種があります。要請内容によっては特別な資格がなくても応募できる職種もあります。今回はその中から、代表的な5つの職種を紹介します。

2 青少年活動

子どもや若者の健全な育成と自立を支援する

分類：人的資源

類似職種：小学校教育、体育、幼児教育、ソーシャルワーカーなど

どんな職種？：家庭環境や社会情勢から困難な状況下で生きる途上国の子どもや若者の心理を理解し、やる気を引き出して目標に導きます。活動場所は児童養護施設、学校、難民キャンプ、少年鑑別所、青少年活動団体などさまざまで、派遣先により、情操教育や課外活動、心のケア、職業教育、英語教育などの活動を行います。

先輩の活動の一例：モザンビークにあるモザンビーク島の小学校で音楽と体育の授業を担当。課外活動として、ソーラン節などを教えるダンスクラブや、ピアノや日本語のクラブも担当した。



◀ 詳細はこちら

2022年5月号「この職種の先輩隊員に注目！～現場で見つけた仕事図鑑」へ

3 環境教育

自然と調和した健康な生活を送るための教育や取り組みを行う

分類：人的資源

類似職種：青少年活動、コミュニティ開発、小学校教育など

どんな職種？：行政機関や自然保護活動を行う団体などに配属され、ゴミ問題、自然保全、環境理解をテーマにしたイベントや研修会、授業などを行ったり、ゴミ拾いや分別の啓発活動をしたり、コンポストの普及活動を行います。

先輩の活動の一例：エクアドルのグアラング市役所に配属され、市内5カ所の学童保育所で子どもたちに向けた環境教育の授業を担当。他、地元テレビ局で環境教育のテレビ番組制作に関わった。



◀ 詳細はこちら

2021年11月号「特集 環境教育隊員に学ぶ、活動がうまくいく3つのポイント」へ

4 PCインストラクター

IT人材育成のため、PCの基本操作などを指導する

分類：人的資源

類似職種：コンピュータ技術、デザイン、小学校教育、青少年活動など

どんな職種？：途上国でのIT人材を育成するため、学校や自治体などでPCの基本知識や基本操作の指導、無料ソフトなどを活用した平易なホームページ作成指導、基礎的なプログラミング指導、PC環境の整備などの活動を行います。

先輩の活動の一例：ガーナの4年制の職業訓練校に配属され、PCの基本操作を教える。生徒数に対して使用できるPCが少なく、停電も多かったため、視覚教材やカードも使いながら指導した。



◀ 詳細はこちら

2021年11月号「この職種の先輩隊員に注目！～現場で見つけた仕事図鑑」へ

あなたに合った職種は？

ここでは分野別で職種の一例を紹介します。詳しくは募集要項であなたに合った職種を見つけてください。

計画・行政

国・地域づくりに関わるシゴト

- コミュニティ開発
- 行政サービス
- 交通安全
- 防災・災害対策
- 環境行政
- コンピュータ技術 etc

農林水産

食べ物や自然に関わるシゴト

- 食用作物・稲作栽培
- 野菜栽培
- 土壌肥料
- 家畜飼育
- 養蜂
- 林業・森林保全 etc

鉱工業

ものづくりに関わるシゴト

- 溶接
- 電気・電子設備
- 建設機械
- 自動車整備
- 食品加工
- 陶磁器 etc

人的資源

教育やスポーツなど人を育てるシゴト

- 青少年活動
- 環境教育
- PCインストラクター
- 体育/スポーツ職種
- 小学校教育
- 家政・生活改善 etc

保健・医療

いのちに寄り添うシゴト

- 看護師
- 理学療法士
- 作業療法士
- 感染症・エイズ対策
- 公衆衛生
- 助産師 etc

社会福祉

福祉に関わるシゴト

- 障害児・者支援
- 高齢者介護
- ソーシャルワーカー
- 労働安全衛生
- 福祉用具

商業・観光

経営管理・マーケティングや観光に関わるシゴト

- 観光
- 経営管理
- 品質管理・生産性向上
- 輸出振興
- マーケティング

公共・公益事業

生活サービスに関わるシゴト

- 土木
- 廃棄物処理
- 水質検査
- 番組制作
- 地震
- 建築 etc

エネルギー

エネルギーに関わるシゴト

- 再生可能・省エネルギー
- ガス・石油・石炭
- 電力

5 感染症・エイズ対策

各種感染症の感染防止や撲滅に向けた活動

分類：保健・医療

類似職種：公衆衛生、薬剤師、看護師、保健師、コミュニティ開発など

どんな職種？：地域の人々に向け、感染症（HIV/エイズ、マラリア、フィラリア症、シャーガス病、結核、ポリオなど）の予防や撲滅に向け、ワクチンの普及や予防への啓発、教育などを行います。保健衛生領域の資格・免許が必要な要請と不要な要請があります。

先輩の活動の一例：バングラデシュのチッタゴン県でポリオワクチン投与の現場に同行し、正しく接種が行われているかモニタリングし、投与記録を正確に残すことや、ワクチンの温度管理などのアドバイスを行った。



◀ 詳細はこちら

2023年1月号「派遣国の横顔 バングラデシュ」へ

選考の流れ & 選考担当者から皆さんへ

JICA海外協力隊の募集のうち、「一般案件」は、複数の職種で応募することができます（一部の要請は45歳以下の方が対象）。自分の持っている知識や技術、経験を開発途上国の人々のために生かしてみませんか？ 2023年春募集を例に選考の流れについてご紹介します。

募集期間 ▶ 2023年春募集は、2023年5月～6月に実施予定です。

応募方法

- ▶ **まずはプレントリーを。受験者ごとに「マイページ」を発行。**
応募に先立ち、プレントリー（募集開始の数週間前からできる事前登録）を行います。プレントリーをされた方には個人用のウェブページ「マイページ」が発行されます。
なおプレントリーをしていただくと、応募に役立つ情報、協力隊員の活動事例や帰国後の進路、JICA海外協力隊に関するニュースなどが配信されます。
- ▶ **応募は、ウェブ上の「マイページ」にて必要事項を入力して行います。**
応募や選考に必要な書類の提出もマイページから行います。応募完了すると適性テストも実施いただくようになっています。また健康診断の受診と結果提出も必須です。これらをご提出いただいた後、一次・二次選考を以下のとおり実施します。

応募から選考までのスケジュール

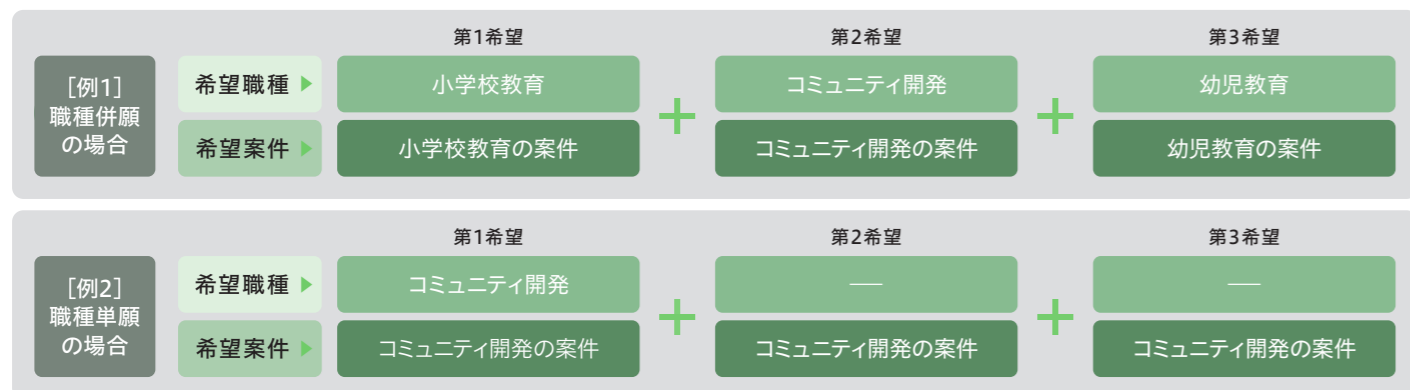
詳しい日程は決まり次第、JICA海外協力隊ウェブサイトでお知らせします。

時期	応募・選考プロセス	内容
5-6月	応募	ウェブ入力 2023年5月下旬～2023年6月下旬 適性テスト ※応募完了者のみ対象。ウェブ受検、全員必須。 郵送（問診票・健康診断書） 2023年6月下旬
7-8月	一次選考	健康、語学力、その他書類審査を行います。 ※健康診断結果については確認や、再検査などの指示もよくあります。応募後も連絡用メールアドレスは小まめに確認を！
//	一次選考合格通知	応募者用マイページにて、合格結果を通知します。
9月	二次選考	ウェブ面接（予定） ※職種によっては面接の他に試験や作品または動画の提出を事前に求める場合があります。
10月	二次選考合格通知	応募者用マイページにて、合格結果を通知します。 各国からの要請と照らし合わせて総合的に判断し、合格を決定します。

選考の詳細内容は23ページの表をご覧ください。

「一般案件」への応募

「一般案件」への応募では、「希望職種」と「希望案件」をそれぞれ最大3つまで選択できます。各「希望職種」で必ず1つ以上の「希望案件」を選択してください。複数の職種を選択された場合、一次選考合格通知の際に二次選考（面接）の対象となる職種を1つお知らせします。



選考の流れ

選考プロセス	主な項目・内容
一次選考	健康審査 「問診票」および「健康診断書」をもとに応募者の健康状態を審査します。 ※「問診票」および「健康診断書」の申告内容によっては追加指示（再検査など）が出る場合があります。 健康診断書・問診票 健康診断を受診し、以下の提出締切日までに問診票と共に郵送してください。 提出締切日：2023年6月下旬 ※2023年2月下旬以降に受診したものが有効となります（2023年春募集の場合）。 診断項目はJICAが指定するすべての項目が必要です。JICAが募集期ごとに指定する健康診断書の様式を医療機関に持参の上、受診してください。なお、費用についてはJICAの規定に基づき5,000円を上限とする実費額を支給します。
一次選考合格通知	発表日 2023年8月中旬～下旬。応募者用マイページにて、合格結果を通知します。合格者には二次選考の詳細も通知します。
二次選考	日程 2023年9月初旬～中旬 会場 ウェブ面接（予定） ※状況によっては、変更となる場合があります。 人物・技術面接 JICA海外協力隊としての適性について、人物、技術の観点から面接を行います。職種によっては、面接の他に追加の資料提出（書類、写真、動画など）を求める場合があります。 健康審査 応募時に提出された「問診票」および「健康診断書」をもとに応募者の健康状態を審査します。
二次選考合格通知	発表日 2023年10月下旬 応募者用マイページにて、合格結果を通知します。

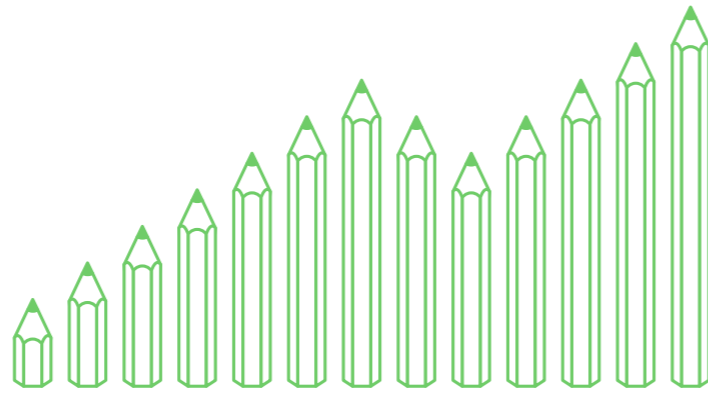
【選考担当者から】
JICA海外協力隊
ウェブサイトを
活用してください



応募相談で多く受ける質問は、「職種選び」に関するものです。職種選びで迷った時は、ご自身の経験・技術を振り返り、しっかり整理した上で、JICA海外協力隊ウェブサイトの「シゴトを見つける/シゴトを知る/職種選びのヒント」のページをチェックしてみてください。
また、「現地で自分に何ができるのか、何がしたいのか」を具体的にイメージすることも大切です。応募にあたってご自身が抱く不安や疑問を解決しておくことも大切ですが、ご家族など周りの方が不安や疑問を持っている場合もあります。そうした方々の理解を得るために、JICA海外協力隊ウェブサイトの「ご家族の方へ」のページなどを参考にしてください。
派遣先で力を発揮するためには「健康」であることがとても大切です。応募を決めたら、日頃から健康に留意したり、医師のアドバイスを受けて生活習慣を見直したり、必要な場合は治療するなど、さまざまな国・環境に対応できる健康状態にしておきましょう。

選考試験では ここを見る！

選考を担当しているJICA青年海外協力隊事務局
課題業務・選考課が、ポイントを紹介します。



応募書類の書き方

応募にあたって記入していただく項目が多いので、少し大変だと思いますが、重要項目ばかりですのでしっかりと記入してください。

記入するときのポイント ▶ 応募に必要な各項目を漏れなく、誤りなく記入してください。希望する案件の番号を間違えて記入していませんか？ また、選択した職種(複数の方は、それぞれ分けて記入)での経験についても詳しく記載して、隊員としてどんなことができそうか、どんなことをしたいのか、を十分にアピールしてください。語学資格については証明書をPDF化したものを提出してください。いざ提出の際、違う書類を添付してしまわないように注意してください。

【選考サイドはここを見る！】

皆さんのこれまでのご経験、ご経験として書いていただいたことや、希望する案件、希望する派遣時期などを見て、二次選考(面接)で何をお伺いするかの準備をします。上手な文章を求めているわけではありませんので、ご自身の言葉で、何をしてきたのか、何をしたいと考えているのか、教えてください。
なお、健康診断書類の提出、適性テストの受験、どちらも必須です。健康診断では再検査の指示もあり得ますので、連絡先として申告したメールアドレスの受信確認は、数日に一度は行ってください。

面接(二次選考)

面接ではJICA海外協力隊としての派遣に必要な条件を備えているかどうかについて、人物面、技術面から確認します。

面接はどうやって行われる? ▶ 人物面接と技術面接の2回に分けて行われます。いずれも個人面接です。

人物面接 約15分

意欲・積極性、異文化適応力(柔軟性)、周囲の人との協調性など協力隊員としての適性を判断させていただきます。「応募の動機」「これまでの経歴や経験、それを踏まえて現地ですでできると考えること」「帰国後の進路への考え」など、さまざまな観点から質問をします。

技術面接 約15分

その募集期に集まった各要請案件の内容に照らして、その技術的な側面に関する対応可能性について質問します。要請されている活動内容、特にご自身で希望とされた要請案件の内容をベースに、その活動に対応するために必要な知識や経験を有しているかについてお伺いします。事前に資料(書類、写真、動画など)の提出を求める職種もあります。

【選考サイドはここを見る！】

①参加したい、という強い意欲をお持ちかどうか、異文化への適応力や、周囲の人とのコミュニケーション能力など、基本的なJICA海外協力隊員としての資質があるかどうか。
②知識や経験、免許・資格などの技術レベルは、活動に対応しているか。
③活動と生活に支障がない語学力を有しているか、向上する意欲があるか。
④派遣国や地域での活動と生活に支障がない健康状態であるか。
これらのどれか一つに比重が置かれているということではなく、総合的に判断しています。面接は、自然体で臨んでください。質問に対しては、自分の言葉で、正直に、誠実にご説明ください。

応募にあたって

事前準備は必要? ▶ JICA海外協力隊の活動には、コミュニケーションの基礎となる語学力や健康な心身の状態をはじめ、自発性、思考の柔軟性、協調性、臨機応変な対応力、物事を前向きに捉える力、などが求められます。そのような「基礎力」の強化や、情報収集に加え、「なぜJICA海外協力隊に参加したいのか」「JICA海外協力隊としての2年間を、自分の人生設計の中でどのような位置づけとしたいのか」などについて、よく考えておくといでしょう。

所属先や家族への相談は必要? ▶ 受験前に相談していなかったために、合格後、所属先やご家族の理解が得られず辞退せざるを得ない方もおられます。事前に所属先やご家族とよくお話をされ、十分な理解を得て気持ちよく送り出していただけ環境の下で応募されることをお勧めします。その熱意が、現地での活動にも生きてくるものと思います。

応募までにしておきたいことをチェック!

To-Doリスト



JICA海外協力隊への応募に際して、やっておかなければならない基本的な事柄をまとめました。それぞれの項目の詳細はJICAのウェブサイトでご確認ください。



応募資格

- 年齢条件(募集期の隊次の最初の訓練開始時に20歳以上、応募期間最終日の年齢が70歳未満)をクリアしている応募期であるか、確認してください。
- 以下のいずれかに当てはまる場合は、応募前にJICA海外協力隊募集事務局にご相談ください(異なる立場で派遣されることになるので、該当国への派遣は困難です)。
 - ▶ 日本以外の国の国籍を持つ。
 - ▶ 日本以外の国の長期滞在資格を持つ。

職種・案件

- 応募する区分を決めてください。
 - ▶ 長期/短期
 - ▶ 一般案件/シニア案件
- 以下に従い、応募する職種/案件を決めます。
 - ▶ 長期・一般案件…「職種」への応募(複数職種可)
 - ▶ 長期・シニア案件…「案件」への応募(複数職種可)
 - ▶ 短期…「案件」への応募(複数職種不可)

家族・職場

- 海外在住の場合も、できるだけ日本国内に住むご家族らの住所・電話番号を、家族連絡先に記入してください。
- 「職場への連絡不可」にチェックすれば、応募に関してこちらから許可なく職場に連絡することは絶対にありませんので、職場への連絡を希望しない方は記入してください。
- 仕事を辞めずに参加する現職参加を希望する場合は、ご自身で職場に相談し、派遣に向けて利用できる休職制度や研修制度などを確認し、所属先ともよく相談して計画してください。また、条件に合致する場合は、所属先が参加者の雇用を継続することを支援するための「現職参加促進費」を所属先にお支払いすることができます。

健康

- 日本とは異なる環境で生活することを前提に、健康状態について主治医に相談しておいてください。
 - 応募時に提出する指定様式の健康診断書の項目に沿って、指定期間内に健康診断を受け、郵送で提出してください。体力維持のための運動や食事内容に注意するなど、派遣前から日頃の健康管理には気をつけてください。
- 合格後
- 派遣に必要な予防接種を受けていただく場合があります。選考試験の合格後、ご案内に従って受けていただきます。

語学力

- 希望する案件の選考指定言語(英語/フランス語/スペイン語など)の検定試験を受験しておいてください。英語の場合「英検3級もしくはTOEIC®で330点以上のスコア」が必要条件です。
 - 検定試験の結果を証明するもの(語学力証明書)を入手してください。
- 合格後
- 活動に必要な言語は長期派遣者向け訓練で習得する機会があります(語学訓練免除者研修受講者を除く)。
 - 訓練に入る前も語学の勉強は続けましょう。活動言語の独学が難しければ英語を。

技術力

- 希望する案件で求められている技術・免許を習得・取得しておいてください。
 - 希望する案件で求められている経験(実務経験・教員経験・指導経験・競技経験・その他)を積んでおいてください。
- 合格後
- 応募書類には「経験」の内容を詳しく書いてください。
 - 取得見込みの資格は、取得され次第、証明書を提出していただきます。

お金

- 合格後
- 現地での生活にかかる費用に充てていただくため、国ごとに定めた金額の海外手当を支給します。住居は、派遣国の政府がJICAが支給します。
 - 派遣国などの条件により、支給される手当などの内容が異なります。
 - 派遣中の処遇については、派遣前訓練でのオリエンテーションなどで詳しくご案内します。

その他

- 合格後
- パスポートは、原則として選考試験の合格後にJICAが公用旅券の発給手続きを行います。ただし、90日以内の短期派遣の場合は、派遣国によってご自身のパスポート(一般旅券)での渡航となる場合があります。
 - 「年金」「健康保険」「住民票」「税金」の手続きについては、選考試験の合格後にお住まいの市区町村の役場や年金事務所にお問い合わせください。

情報

- JICA海外協力隊事業や、JICAの事業全般について、ウェブサイトなどで情報を入力し、整理しておいてください。
- 合格後
- それぞれの派遣先の情報(治安、交通、医療、生活事情などに関する情報)については、派遣前訓練や着任時のオリエンテーションなどで最新の情報をご提供します。

健康審査に関する注意事項

選考で重要な「健康審査」について、注意点をまとめました。

JICA海外協力隊員が派遣される国々は、生活環境（気候、ライフラインなど）や文化的背景、医療事情（タイムリーに医療機関を受診できるかどうかなど）が、日本と大きく異なる場合がほとんどです。そのため、選考でも健康審査を慎重に行った上で、派遣の可否ならびに派遣国を判断しています。以下の事項に注意しつつ、日頃からの健康づくりを心がけてください。

選考時健康審査、入所前（訓練前）・派遣前健康診断

【選考時】

応募時に提出された「問診票」と「健康診断書」をもとに応募者の健康状態を審査します。再検査や、診断書の取り寄せが必要となることもあります。着実にご対応ください。

【合格後、入所前（訓練前）・派遣前】

合格後に新たな傷病が発生した方には逐次ご連絡をお願いしています。また隊次ごとの訓練が始まる際にはその前に、必要な健康診断を受けていただきます（対象者は同隊次の全員）。新たな傷病の状況や、健康診断の結果により、訓練への参加、派遣が取り消しとなる場合があります。なお派遣国によっては所定の追加検査が必要となる場合があります。

詳細はJICA海外協力隊ウェブサイト内の右記QRコードのページ「健康診断について」をご参照ください。



選考時の健康診断書提出に関する注意事項

①健康診断の予約はお早めに

健康診断は、医療機関によっては予約がすぐには取れなかったり、結果入手に時間を要することがあります。プレエントリーにより健康診断書式を早めに入手いただけますので、応募をお考えの方は、受診予約はお早めをお願いします。

②診断書の様式

健康診断書の様式は、各募集期に設定されるものを必ず使用してください。異なる募集期のものや、医療機関独自の書式などは受けつけられず無効となります。

③検査漏れ

医療機関から受け取った診断書が、封をされていた場合も必ずご自身で開封し、検査項目の漏れがないかなどを確認して、漏れがあれば速やかにその医療機関にご相談ください。未記入の項目があると審査対象外となってしまいます。

④血液型

ご提出いただく健康診断書には血液型の記載が必要です。受診前に医療機関にもご説明ください。

⑤診断書提出や再検査についての連絡

健康診断書を受領し、確認を進める上で、主治医からの診断書の取り寄せ・提出や、再検査を受診してその結果を送付いただく必要があるケースがかなりあります。連絡先としてご自身で指定されたメールアドレスは、応募後も小まめにチェックしてください。

〈健康に自信あり！という方も確認ください〉

BMI：極度の肥満だけでなく、極度の「痩せ」も、抵抗力が弱まって病気にかかりやすかったり、かかった場合の回復が遅れたりという可能性があり、決して見過ごせないものです。

LDL：悪玉と呼ばれるコレステロールの値です。高すぎる場合は動脈硬化を引き起こす恐れがあります。

※BMI基準範囲=18.5～24.9kg/m²（公益社団法人 日本人間ドック学会ホームページより）

※LDL基準範囲=60～119mg/dL（公益社団法人 日本人間ドック学会ホームページより）

JICA海外協力隊に参加する人はどんな人？

CASE 4

障害のある方も活躍中 当事者だからこそ、わかることや伝えられることがある

応募者への Message

協力隊からの帰国後も、ろう者を支援する取り組みを続け、さらに幅を広げたいと考えたことが、現在の私の活動につながっています。障害当事者が派遣される意義は大きいので、ぜひ応募してほしいです。不合格になっても、再チャレンジを！



ひろせ めり
廣瀬芽里さん

ドミニカ共和国／青少年活動／2012年度3次隊・栃木県出身
ろう者であることが2歳で判明、両親が読話や日本語を教えた。大学在学中に世界を旅する。大手メーカーに8年間勤務し、退職後にダスキン愛の輪基金による海外研修を経験。2013年にドミニカ共和国へ派遣され、帰国後、在日外国人ろう者を支援する団体を設立。現在、途上国のろう者を支援するNPO団体「Yes, Deaf Can!」の代表。

応募者への Message

たくさんの人と交流したい人、海外に興味がある人、好奇心があって世界を広げたい人には、すごくよい経験になります。途上国では、砂利道や階段などバリアフリーの設備が整っていないところが多いですが、日本以上に周りの人が手伝ってくれます。



しんぼ やすひろ
神保康広さん

マレーシア／バスケットボール（車いすバスケットボール）／2006年度9次隊・東京都出身

10代の時にバイク事故で脊髄を損傷するが、車いすバスケットボールと出会い、パラリンピックに4回出場。アメリカで障害者スポーツを学び、車椅子開発を行う会社などでの勤務を経て、マレーシアに派遣。帰国後、車椅子製作会社で競技用車いすの開発や販売に従事。現在は障害者スポーツの普及活動や講演を続ける。

JICA海外協力隊では、障害当事者の人々も多数活躍してきた。

聴覚障害の当事者である廣瀬芽里さんは、2013年1月から2年半、ドミニカ共和国のろう学校で活動した。「ろう者にはろう者の文化があって、例えば机をたたいた振動で合図を送るのは普通なのですが、健聴者はびっくりしますね。そんな文化のわかる当事者同士のほうが、しっかりコミュニケーションできます」と当事者派遣の意義を話す。

自らも車椅子生活を送る当事者で、車いすバスケットボールの優れたプレイヤーでもある神保康広さんは、06年に短期派遣隊員としてマレーシアで車いすバスケットを指導した。要請は同年末にクアラルンプールで開催されるフェスティック（※1）に向けた代表選手の育成だったが、全国から集められた候補選手たちには地元での仕事などの社会的なよりどころさえないことを知った。神保さんは「社会参加している障害者の先輩」として、車いすバスケットの出

会いや、企業に就職して仕事に打ち込んだこと、日本でも障害者の社会参加には壁があったことなどを話し、「社会を変えていくのは君たち」と訴えた。

協力隊では特に障害当事者に限定した要請があるわけではないが、障害のある人々と関わる活動では、障害当事者の経験が役立つのは確かだろう。ただ、廣瀬さんにはさらなる理想がある。「必ずしも障害者関連の要請でなくても、しかるべきスキルがあれば、障害者は活躍できるはずだ」。

※1…極東・南太平洋身体障害者スポーツ大会のこと。アジア・太平洋地域の障害者スポーツの国際大会で、1975年から2006年までに9回開催され、現在は「アジアパラ競技大会」に吸収される形で引き継がれている。



マンツーマンで実施された語学研修。
「大変でしたが、健聴者に負けられないとの思いもあって頑張りました」



ドミニカ共和国のろう学校で生徒たちに囲まれる廣瀬さん



フェスピックで選手に言葉をかける神保さん



2020年に勤めていた会社を辞め、現在はフリーで講演やボランティア活動を行っている。
22年にはセネガルに短期渡航して現地の学校などを訪問した



廣瀬芽里さん(聴覚障害者)の場合

- ▶ JICA海外協力隊 青少年活動隊員としてドミニカ共和国へ
- ▶ 帰国後：途上国のろう者を支援するNPOを設立

協力隊の選考では障害を理由とする可否の判断はなく、必要な配慮が取られている。廣瀬さんは「面接試験ではろう者であることをPRしたのが響いたと思います。応募書類にも聴覚障害のことを書いていたので、面接には手話通訳者が手配されていました」と振り返る。

青少年活動の職種で日系社会青年ボランティアとしてブラジルに派遣されることになり、JICA横浜で2カ月間の語学訓練を受けた。訓練中にも集団講義には手話通訳がついた。語学訓練の講師は手話の専門家ではなく、教わるのも手話ではなくポルトガル語の読み書きだったが、講師1名に訓練生数名という通常のクラス編成に対し、特例的に1対1の授業だった。

しかし、2カ月の訓練を終えて赴任を目前にして、派遣国がビザの関係でブラジルからドミニカ共和国に変更になった。このため改めて駒ヶ根青年海外協力隊訓練所

でスペイン語を学ぶことになった。

「楽しみにしていた任地が突然変更になったのはショックで、訓練でも自分はなぜここにいるのだろうと思いました」

スペイン語はポルトガル語と似ているだけに混同しやすく、勉強は大変だった。「厳しい先生でしたが、音声を用いずすべてホワイトボードに書いたり貼ったり工夫してくれました。私の場合は耳で覚えるのではなく、すべて目で見なければならぬので、目が疲れて大変でした」

派遣国で使われる手話の種類については講師や、自身の海外の知人を通じて調べるなど、赴任前に情報収集したという。

派遣先はドミニカ共和国のろう学校。併設の小中一貫校とは校舎が別で生徒間の交流は乏しく、待遇にも差があった。教員は健聴者ばかりで手話が得意ではなかった。廣瀬さんは差の解消を求め、合同での国旗掲揚や、手話の講習会、チャリティイ

ベント、マラソン大会などを通じ、ろう者と健聴者が交わる機会をつくった。「健聴者によるバリアがありました、現地の人と一緒に頑張ることで、『ろう者もできる』と健聴者の意識を変えられました」。

派遣中、現地のJICA事務所からも配慮があった。当時、各隊員に貸与される携帯電話は通話専用モデルだったが、廣瀬さんは文字のやりとりが楽なようにスマートフォン。「活動報告会では手話通訳がないため、企画調査員 [ボランティア事業] (※2) が他の隊員の発表をリアルタイムで書き起こしてくれたりしました」。

半年間の活動期間延長を経て帰国した廣瀬さんは、ろう者支援団体「Yes, Deaf Can!」を立ち上げた。今は飲食店や屋台の開業を目指すろう者をマイクロファイナンスで支えることを目指していて、すでにネパールやポリビアからの依頼が舞い込んでいる。



神保康広さん(脊髄損傷による車椅子利用者)の場合

- ▶ JICA海外協力隊員(短期派遣)としてマレーシアで車いすバスケットボールを指導
- ▶ 帰国後：車椅子メーカー勤務を経て独立。障害者スポーツの指導や体験を伝える活動に取り組む

神保さんは16歳の時にバイク事故で脊髄を損傷し、下半身の自由を失った。障害も車椅子生活も受け入れられなかったが、周囲の勧めで車いすバスケットチームの見学に行ったことが転機となった。「何だこれは！と驚きました。楽しそうに汗を流す姿が輝いて見えました」

企業や役所で社会人として働きながら練習に打ち込んだ神保さんは、パラリンピックにも4回出場。その後、マレーシアで車いすバスケットを指導する短期派遣隊員の募集を知って参加を望んだが、当時の職場で休職が認められず、退職参加を決めた。「障害者は、仕事を見つけるのも大変。退職や休職に踏み切れない人は多いですが、思い切りました」

車椅子利用者の派遣はJICAも初めてだったため、まず1カ月間活動し、継続できそうだと確認した上で、改めて6カ月間の派遣となった。

「在外事務所からは『必要なことがあれば言ってください』と言われていました。6カ月派遣の際は、隊員の住居としては家賃が高めだったようですがバリアフリーの部屋を手配してもらいました」

派遣されたのは国立の障害者職業訓練校。選手たちは自国開催のフェスピックのため急ぎよ集められ、職業訓練校の施設を使用する建前上、昼間は職業技術の訓練を受けて、夕方から練習に取り組んでいた。当初はやる気が乏しかった選手たちも、神保さんが自らの経験を話し、実際にハードな練習もやってみせると、意識や行動が変わってきた。集合時間前に来て準備運動をする姿も増えた。

そんな活動の中、現地生活ではハードルも感じた。バイク止めの柵が邪魔で通れないことや、公共交通機関への乗降が困難なことなど、ハード面のバリアが多かったという。ただ、「電車の扉が狭くて乗れない

時に、周りの人が折り畳んだ車椅子を車内に運び入れたりして手伝ってくれたこともあります。周囲の人のサポートという面では、日本より人情味がありますね。混んだ電車での移動はさすがに難しく、家から車で30分ほどの配属先への行き来は、もっぱら同僚の車に便乗するか、タクシーを利用していた。

任期終盤のフェスピック本番ではナショナルチームの指揮も執った神保さん。活動を通じ、単なる選手強化という要請を果たすことにとどまらず、「俺たちにもできる」というメッセージが伝わったようだった。後に就職活動を始めて日系企業での仕事に就いた選手や、自らスーパーを開業した選手もいた。

「はるばるマレーシアへ行って活動したかいがありました。選手に経験を伝える上では、私が同じ立場だからこそ説得力を持ったのではないかと思います」

任地メモ

任地は断水や停電がよくあり、ヘッドライトや、太陽電池で充電できるソーラーライトが重宝しました。

私はもっぱら自炊派で、ホストファミリーとも料理をしていました。現地の料理で印象に残っているのがサンコーチョというスープで、野菜と肉、塩だけでシンプルですが、とてもおいしいんですよ。サーフィンが好きなのでよく海にも行っていました。砂浜で流木を集めて火をおこし、サンコーチョを作ったのは楽しい思い出です。

治安面では、リュックを前に抱える、携帯電話を前ポケットに入れる、持ち歩くお金は最低限にするといった原則を守っていました。1度だけ拳銃強盗に遭いましたが、JICAから言われていたとおり無抵抗で所持品を渡し、事なきを得ました。



①砂浜で郷土料理のサンコーチョを作る廣瀬さんたち
②イモや肉などを煮込んだサンコーチョ
③同僚たちと料理を楽しむ廣瀬さん

任地メモ

多民族国家のマレーシアは食文化が豊かで、蒸し鶏をご飯にのせた海南鶏飯や、炒飯に似たナシゴレン、麺を炒めたミーゴレン、骨つき肉を香辛料で煮込んだバクテーなど何でもおいしかったです。屋台は1食100～150円ほどなので、よく利用していました。

休日には他の町を散歩するのが好きでしたね。電車で行けるところまで行き、あとは車椅子を走らせてローカルな路地などをのぞいたりしました。また、配属先にはフェスピックの代表選手以外でも車いすバスケットに興味のある生徒がいて、休日に教えに行くことも多かったです。

平日は午後から行けばよかったのですが、朝から行って職業訓練を手伝ったり、資料作成などの作業をしたりと活動していました。



①マレーシアでお気に入りのエビ料理
②職業訓練として車椅子製作を行う選手たち
③最初の1カ月間の派遣時は職業訓練校の寮で寝起きした

※2…JICAの在外事務所などで協力隊の活動全般をサポートする担当者。

CASE
5

もう一度、ものづくりのワクワク感を！
40年のエンジン生産のスキルを生かして
工学科の学生たちに技能を伝授

定年退職後に参加した高澤道夫さんの場合 ▶ 工作機械隊員としてカンボジアへ
▶ 帰国後：再就職すると共に個人で配属先の人たちと関わり続ける



①カンボジア国立技能専門学校の機械工学科の4年生に講義を行った ②学校行事の2泊3日キャンプにも参加し生徒たちと交流を深めた
③工作機械のクラスに導入された新しい工具に見入る生徒とCPの教官



「もう一度、技術の仕事に没頭したい。若い時のように胸をワクワクさせたい」という思いでシニア海外ボランティア（※1）に参加したのは、高澤道夫さんだ。

高澤さんは川崎重工業に約40年勤務し、航空機などに使われるジェットエンジンや発電プラント用のガスタービンエンジンの生産に携わってきた。

「年を経るにつれて管理業務のほうが多くなって、もう一度、ものづくりのワクワク感を感じたかった。60歳で定年退職した後も再雇用制度で仕事を続けながら、協力隊の要請をよく見ていました」

海外赴任の経験はなかったものの、海外出張の時の異文化体験や違う国の人たちと接する楽しさが忘れられなかったこと、また、若い頃に青年海外協力隊員としてマ

レーシアで活動した妻からその体験をよく聞き、参加に憧れていた。

配属先は2005年に設立されたカンボジア国立技能専門学校の機械工学科。他に自動車、電気、電子、土木、コンピュータ、観光の学科があり、生徒数約2000人を抱える、国の人材育成をリードする学校だ。

教師陣は国内有数の大学を卒業した若いエリート中心だが、現場経験がなく、コンピュータ数値制御装置（CNC）のついた工作機械を実践で使用したことがないため、その実技指導や助言を行うという要請だった。

ところが赴任してみると、カウンターパート（以下、CP ※2）となる予定の教員は日本に留学しており、CNCはすべて故障し使用できない状態。高澤さんは、旋盤、フラ

イス盤など非CNC機械の実習を担当する別の教員を新たなCPとして支援を行うことになった。

「その先生は日本への留学や企業研修の経験もあり、日本でも少なくなった熟練工レベルのスキルを持つ人。どのように支援を行っていけばいいのか、授業に参加し、人間関係をつくりながら考えました」

実習内容は機械を操作し加工することに重点が置かれており、検査も現物合わせで組み合わせれば合格とする状況だった。

「町の工場を回ってみると、やはり修理が主体で、そのための実践的な授業内容になっていたといえます。しかし、海外から進出している企業が求めるのは図面に基づいて部品を加工し、指示どおりの性能の製品を作れる人材。今後を考えれば、設計

応募者への
Message

その国の言葉話す努力をし、同じ物を食べ、同僚や近所の人とおつきあひし、この国の役に立ちたいと活動した2年間は意義深いものでした。すぐに成果を出すのは難しいですが、相手を尊敬し、知恵や好奇心、自分なりの工夫で、粘り強く頑張してほしいです。



たかざわみちお
高澤道夫さん

カンボジア/工作機械/
2013年度4次隊・兵庫県出身

技術者として川崎重工業に約40年勤務し、定年退職後に再雇用制度で仕事を続けながら、シニア海外ボランティアにチャレンジし、62歳でカンボジアへ。帰国後は、再度、川崎重工業グループの企業に勤務したほか農業などを行う。

図を見て、加工工程を計画し、加工、検査する基本作業の能力を習得できるよう指導していくことが欠かせないと考えました」

高澤さんは周りの人々と人間関係を築きながら、授業にそうした内容を含めていったほうが良いと折を見て少しずつCPに働きかけていった。

「CPが少しだけ話す日本語と、英語と、訓練所で苦勞して学習したカンボジア語を駆使して何とかコミュニケーションを図っていました」

加工の高度化のために不足している工具・計測器などもCPと相談しながらJICAの支援を得て購入。それらの使用マニュアルも作成して提供した。さらには、基本の加工プロセスをこなせる人材育成を中心にしよう校長ら教師陣にも提案した。

こうした努力が実を結び、1年たった頃、高澤さんは4年生の授業を週1コマ担当し直接講義することになった。

「ガスタービンの生産技術というテーマで



帰国後日本に技能実習生として来日したカンボジアの生徒を地元の祭りなどの行事に連れていった

学生に話すと、学生たちもとても興味を示して聞いてくれました。カリキュラムへの反映までには至らなかったのですが、活動全般ではやや燃焼不足の感はありますが、先生方とも仲良くでき楽しい2年間でした」

その交流は、帰国後も続く。同校の先生や卒業生が来日すると、かつての高澤さんの勤務先に工場見学に連れていったり、技能実習生として卒業生が近隣にいれば勤務先を訪ね、自宅に招いたり、地域の行事と一緒に参加したりしている。

「彼らがすぐに一流の技術者になるわけではありませんが、こうした活動が将来的に、少しでも芽が出ることに繋がったら嬉しいですね」

シニア案件とは？

一定以上の経験・技能などが必要な個別の要請に応募する、日本国籍を持つ20～69歳までの方が対象。「シニア海外協力隊」「日系社会シニア海外協力隊」と呼称。

職種ガイド

工作機械

製造業の現場で使われる主な工作機械について工学系の大学や高等専門学校などで講義や実習などを通じて生徒や教員のレベルアップに貢献する。日本での幅広い実務経験や知識が求められる。高澤さんの場合は、国立技能専門学校（2年間の短大課程と4年間の大学課程がある）で機械系の学生に対する工作機械実習の担当教員の支援と共に、要請にはなかった4年生を対象にした講義も行った。

任地メモ

カンボジアは暑いのでエアコンをしょっちゅうつけていたら、電気代が月に3万円に！ 電力を近隣の国から輸入しているため電気代が高いことを知り、以後、節約しました。

日本から持っていったよかったのは、自分の体に合った薬とメガネの予備です。日本製のメガネはネジが特殊で修理が難しいため、予備があることで安心できました。食材では味噌。何でも手に入りますが、これだけはありませんでした。

週末は妻と2人で朝から出かけ（※3）、ローカルのお店でおかゆを食べ、カフェでコーヒーを飲み、プノンペン市内をJICAが無償資金協力した公共バスで見て回ったり、長距離バスで地方にも出かけました。

野菜などは市場で新鮮なものが手に入る



休日には奥様とカンボジア国内を小旅行

※1 現在は一般案件は「海外協力隊」（46～69歳の方）、シニア案件は「シニア海外協力隊」（20～69歳の方）と呼称している。 ※2 配属先で隊員と共に行動し、活動に協力してくれるパートナーのこと。

※3 当時の「シニア海外ボランティア」は配偶者の帯同が許されていた。現行の制度では、家族の随伴は想定されていません。

CASE
6

教員生活8年目で念願の協力隊に参加 “生きる力の塊”と接して実感した 互いの良い面を教育に生かすこと

現職教員特別参加制度で参加した金光邦朗さんの場合 ▶ JICA海外協力隊理科教育隊員としてソロモンへ
▶ 帰国後：理科教員として勤務しながらソロモンと日本の子どもの交流の機会を増やす



理科の実験は、空き缶、ガラス、アルコールなど、現地にある物を利用して行った



学校外でも他の隊員らと共に町でサイエンスショーを実施。それぞれの隊員が得意のダンスや三線などを使って呼び込みから行った

「異動の節目を見つけて、バンッと飛び込んだ感じですよ」と話すのは、理科教育の職種でソロモンに派遣された金光邦朗さん。高校時代の恩師や大学のゼミの同級生らが協力隊に参加する姿を見て、「いつか自分も途上国の役に立ちたい」と思い続けてきた。

念願がかなったのは、東京都の公立中学校の教員として初任校に勤務して8年目、33歳の時だ。「教員になって最初の1〜3年目は目の前の仕事に必死でした。少しずつ余裕が生まれて、6年目から参加を考えましたが調整がつかず、次に異動する時には必ずと思っていました」と振り返る。

金光さんが利用したのは「現職教員特別参加制度」。教員の身分を保持したまま、有給で協力隊に参加できるメリットがある。一方、学校長からの推薦や教育委員会の理解が必要となり、教育委員会によっては応募者間での競争倍率が高い場合もあ

る。金光さんは副校長に事前に相談しておいたこともあり、学校長からも、「推薦書類に長所をたくさん書いておいたから」と快く後押ししてもらったという。

「以前から『タイミングを見て協力隊に』と話していたので、理解してくれていたのだと思います。同僚には合格してから話をしましたが、『やっぱり』といった反応で、皆、応援してくれました」

同制度で参加する場合、3月末まで学校で仕事をし、4月から派遣前訓練に入る。「応募から派遣前訓練に入るまでの流れはスムーズでしたが、3月31日まで部活動の指導をしていたので準備は大変でした」。

その後、派遣前訓練と現地語学研修を経て配属されたのは、ソロモン・ウェスタン州ムンダにあるコケンゴロ中高校。ここで理科の授業を受け持ったほか、スポーツの時間や課外授業で柔道や三線、絵画などにも取り組んだ。当初は語学研修で習ったソ

ロモンの共通語であるピジン語を使っていたが、生徒たちが都合の悪い時だけウェスタン州の現地語であるロビアナ語を話すため、独学でロビアナ語もマスターした。授業で使う器具がなければ自作し、座学だけでなく、実験・観察などの体験的な学習を重視した。

一方、一步学校の外へ出れば、今度は村の子どもの面倒を見た。毎日、夕食後に自宅に集まってくる30人近い子どもに勉強を教え、一緒に眠った。共に海や山で遊び、子どもたちが捕まえてきた魚介や鳥を調理して食べることもあった。「『学びたい』という子どもたちの純粋な思いに伝えたいと思いました」。そんな日々の様子を『かねみつ〜しん』と名付けたブログで発信し、日本の学校と交流を図ることも忘れなかった。

村人から言われた言葉がある。「今までたくさんのボランティアが来たが、おまえ

応募者への
Message

日本での教員経験は必ず強みになります。現地では何かを教えようとするよりも、溶け込むことが大事です。私の場合は柔道や三線ができることも武器になりました。正解や不正解にこだわらず、お互いのいいところを見つけて、帰国後に生かしてください。



かねみつにお
金光邦朗さん

ソロモン/理科教育/
2016年度1次隊・大阪府出身

高校の教諭や大学時代のゼミの仲間が協力隊に参加していたことがきっかけで、いつか教育分野で協力隊に参加しようと目標を持つ。大学院卒業後、東京都教員として都内の中学校に8年間勤務し、異動のタイミングとなる2016年に現職教員特別参加制度を利用して協力隊に参加。帰国後復職しながらも、ソロモン派遣時に住んでいた村の人々と関わり続けている。

は私たちと同じ物を食べ、同じ言葉を話し、教会にも毎日来た。だからおまえはファミリーだ」。

現地に溶け込み、仲間として認められた金光さんは盛大に見送られ、2018年3月に帰国、4月から新しく赴任した学校で新学期を迎えた。「ソロモンで学んだことを日本の教育活動に生かしたい」と意気込んでいたものの、復職した途端に日本の学校の慌ただしさにあつという間に飲まれてしまったという。さらに、「生きる力の塊のようなソロモンの子どもたちに比べて、物質的にはずっと豊かなのに、悩みや不安、ストレスなどを抱えている日本の子どもたちが多くいること…。当初はそのギャップにも苦しみました」。

しかし、赴任校は金光さんの活動に理解があり、異文化理解も兼ねてソロモンの男子中学生3人を約3カ月間日本の学校に通わせることもかなった。受け持っていた学級の生徒の中には、ソロモンの生徒と仲良



帰国後もソロモンに足を運び、交流を続けている金光さん。2019年夏には、学校や賛同者の協力を得て、ソロモンの男子中学生3人を3カ月間、当時赴任していた日本の中学校に通わせるプロジェクトを実施。金光さんの自宅から通学して異文化交流し、夏休みは各地を観光した

くなり、学ぶことへの意欲が高まった生徒もいる。

「生きるたくましさがある一方、時間にルーズなソロモンで、私自身も寛容さが身につきました。以前ならすぐに怒っていたことも、“まあいいか”と流せるようになり、生徒指導の幅も広がったと思います。今後もソロモンと日本、お互いのいいところを見つけ、それぞれの教育に生かしていけたらと思います」

現職教員特別参加制度とは？

公立、国立大学付属、公立大学付属、私立および学校設置会社が設置する学校の20〜45歳の教員が、身分を保持したままJICA海外協力隊へ参加できる制度。応募の翌年の4月1日から参加開始後は、日本での事前学習と派遣前訓練、任地での協力隊活動、帰国と、2年後の4月1日から年度の開始と同時に職務復帰ができるよう、ちょうど2年間で参加できるスケジュールが組まれている。



詳細はウェブサイトへ▶

職種ガイド

理科教育

主に中学校・高校、教員養成校などにおいて教員として理科を教え、実験を取り入れた授業の実施など、現地の理科教育の改善に協力する。金光さんの場合、中学1年から高校2年までの理科授業を担当。CDケースをカットしてスライドガラスを作製し、顕微鏡による観察を実施したり、ツナの空き缶を使って蒸留の実験をしたりするなど、身近な材料を使う工夫をし、現地教員にも紹介した。

任地メモ

オーストラリアから北東に位置し、大小100余りの島々から成るソロモン諸島。金光さんの任地での住まいは、高床式3LDKの一軒家。水道はなく、レインタンクにためた水を使っていた。シャワー、トイレ、ガスはあったが、現地の人と同じ暮らしを实践しようと、海の近くの湧き水で水浴びし、カマドに薪をくべて自炊した。「子どもたちが火をおこしてくれ、魚介や小動物などを捕ってきてくれました」（金光さん）。

日曜日には教会で朝昼夕3回の礼拝があり、「お年寄りが子どもたちに聖書や道徳について教える場にもなっていました」（同）。優しいばかりで、近隣でマラリアの感染者が出るたびに「蚊に気をつける」と教えてくれたという。



①ムンダでの住まい ②三食屋外で薪をくべて自炊した ③住まい下のスペースを使い、近所の子どもたちを散髪 ④海に素潜りし、タコや魚を捕まえる子どもたち

CASE
7

短期派遣で地方の手工芸品を観光資源に 任期終了後も継続されるプロジェクトを目指し、 実体験で見つけた地域の人・技術を生かすアプローチ

短期派遣として参加した板垣順平さんの場合 ▶ JICA海外協力隊 手工芸隊員として6カ月間エチオピアへ
▶ 帰国後：国内外の地域づくりや商品開発プロジェクトに従事



シミエン国立公園内の村での商品制作のトレーニング



地域の歴史や文化を知る活動として、試作品の展示会を訪れた幼稚園児と

大学・大学院で手工芸やデザインを専攻していた板垣順平さんは、大学院の博士課程に在学中、織物職人の社会的背景などを研究するため、エチオピア北部で計1年半、現地調査を行った。

大学院の修了直前、エチオピアで観光開発を行うJICAの技術協力プロジェクトに関わっていた教員から、「連携して活動する短期隊員の募集がある」と教えられた。調査を行っていた地域と派遣先が近く、自身にもづくりの知識もあり、現地のアムハラ語もできたことから、応募を決めた。「急いでエントリーシートを書き、その後、面接に進みました」。

合格後は、5日間の研修で隊員の心構えや文化・習慣の違いへの配慮、安全対策などの説明を受けた上で現地へ派遣された。短期派遣なので訓練所での研修もなく、応募から約半年での赴任だった。

任地は、1978年に初の世界遺産に選ば

れながら、その後、「危機にさらされている世界遺産」に登録されることとなった同国北部のシミエン国立公園の周辺。公園内外の住民による農業や牧畜が植生や景観に影響を与えていた。

板垣さんへの要請内容は、6カ月間の活動で、それまでの農業・牧畜に代わる産業として、公園内の集落に暮らす住民が制作・販売できるような観光客向けの土産物を開発することだった。まずは公園の玄関口に位置する町で市場を回り、布や刺繍、かごなどを集めた。馬毛（馬の尾の毛）を使ったふるいなど、この地域に特有な品物もあった。こうした伝統的な生活用品を、観光客が手に取ってくれる商品になるように、デザインや仕様の一部改良を検討した。

ただ、自身の活動終了後の継続性を考えて、現地の技術や材料を生かし、新しい技術はできるだけ使わないようにした。博士

課程で現地調査をしていた時、「国際協力での支援はプロジェクトが終わると継続されないことがあり、意味がない」との声を聞いていたためだ。

町で職人らに試作品を作ってもらい、展示会を開くと、予想以上に地域住民が集まった。「ただの日用品と思っていたものが商品になると気づいたようでした」。

さらに、公園内の集落で暮らす住民を訪ねて試作品をもとに製品を作ってもらおうと、思いがけず嬉しいことがあった。商品としての均質性を担保するため、板垣さんは「全く同じように作ってほしい」とだけ頼んでいたが、1週間後に集落を再訪すると、元々課題のあった馬毛製プレスレットの留め口を自主的に改良してくれていた。住民は言った。「こんなふうにしたら、うまく留まるんじゃない？」。

一方、勝手に色が変更され、商品に向かないと思われるものも。板垣さんは集落の

応募者への
Message

自分の描くキャリアパスのイメージが明確で、経験を積みたい人には、貴重な体験となります。学生のうちに休学して参加するのもよいでしょう。短期派遣は、要請と派遣後の活動内容の差異が比較的小さい傾向にあることも利点かと思えます。



いたがきじゅんぺい
板垣順平さん

エチオピア/手工芸/
2012年度9次隊・兵庫県出身

大学時代は民族衣装やテキスタイルを研究。大学院の修士課程はミャンマー、博士課程はエチオピアで現地調査を行い、修了後の2012年末から半年間、短期派遣でエチオピアで活動した。モーリシャスなどでの商品開発、兵庫県や新潟県で地域づくりの活動に従事し、現在、長岡造形大学助教。22年秋から同大学とJICAによるラオスでの草の根技術協力事業に関わる。

人と話し合いを重ねながら「これはいいよね」「これは違うかな」と選別を進めた。現地語を話せたので英語話者などによる通訳も不要で、やりとりはスムーズだった。「短期派遣は活動期間が短いので、ミッションが比較的明確に絞られていることがよかったのかもしれない」

板垣さんの活動は順調に進み、当初の要請を超え、2つの集落での生産組合づくりまでを手がけて任期を終えた。板垣さんの帰国から2年後、知り合いの研究者が現地を訪ねると、プロジェクトで開発した商品が売られていたという。

板垣さんはその後、大学の研究員として兵庫県の山間部で地域活性化に取り組んできた。「プロジェクトを回すということを経験したのですが、民族や気候風土は違っても、人間関係をつくりながら物事を企画して回すというのは日本でも同じ。隊員経験が役立ちました。地域住民が続けてきたことと、新しいこと



長岡造形大学とJICAで進めるラオスでのプロジェクト。隊員時代の経験を生かし、学生をバックアップする

のバランスを考える時にも経験が生きています」。

仕事の方向性も変わり、もののデザインよりも、地域の仕組みや仕掛けをデザインすることが多くなった。現在は新潟県長岡市の大学で教壇に立ちつつ、地域の人材育成や、大学がJICAと連携して始めたラオスでの商品開発プロジェクトを取りまとめる。「今度はエチオピアでの活動をベースに学生を指導します」。現場での経験が、次世代へも受け継がれていく。

任地メモ

6カ月間の短期派遣中、滞在先はずっとホテルでした。基本的には近代的で快適でしたが、時折停電があったほか、観光客があまり来ない時期になるとホテル側が水を止めてしまい、ひどい時には1週間のうち水の出るのが数時間ということもありました。特にトイレを流せないのは困るので、空のペットボトルを大量に集め、水が出る時にためておいたことも。任期終盤には屋上の貯水タンクを開けて使えるようになりました（笑）。

日々の安全管理面では、できるだけ現金を見せないように意識しました。お金のせいで人間関係がよくない方向になってしまう経験も過去にあったので、どれほど仲の良い人が相手でも、それだけは心がけていました。



板垣さんが6カ月を過ごしたホテル。後半には従業員とも仲良くなり、厨房を借りて自炊させてもらったことも

短期派遣とは？

青年海外協力隊・海外協力隊・シニア海外協力隊で、1カ月～1年未満の短い任期で活動する派遣形態。派遣前訓練は長期派遣の場合より短く、語学研修がない。対象年齢20～69歳で、同時期に長期派遣と短期派遣を併願することは不可。詳細はウェブサイトへ▶



職種ガイド

手工芸

人的資源分野の職種の一つで、刺繍やアクセサリーなどの手工芸品作りに関する支援を行う。要請により、生徒向けの技術指導から教員の指導方法の改善、新商品の提案、販路開拓まで活動内容は多岐にわたる。関与する対象も、女性や障害者のような社会的弱者・困窮者や、訓練学校の生徒、観光関連業で働く人などさまざまである。板垣さんの場合は、国立公園内の集落の住民が農・牧畜業に代わる収入源として制作・販売できる土産物の開発に取り組み、有望な民芸品の検討、試作品の作製、集落住民への技術移転を実施。住民からなる制作者組合の結成にもこぎ着けた。

JICA 海外協力隊に関するお問い合わせ先

■ 応募・選考に関するお問い合わせ

お問い合わせ内容	窓口名称	TEL	e-mail
応募	JICA海外協力隊募集事務局	TEL : 045 (410) 8922	contact@jocv.info
応募者用マイページ・選考	JICA海外協力隊選考事務局	TEL:03 (6632) 9465	info@jica-saiyo.com
上記以外	ボランティア相談窓口 (協力隊相談ライン)	TEL:03 (5226) 9817	jocv_sodan@jica.go.jp

JICA海外協力隊
ウェブサイト▶▶

■ JICA国内拠点連絡先

名称	所轄地域	TEL・FAX	e-mail	所在地
JICA 北海道(札幌)	北海道(道央・道北・道南)	TEL : 011 (866) 8421 FAX : 011 (866) 8382	hkictpp@jica.go.jp	〒003-0026 北海道札幌市白石区本通16丁目南4-25
JICA 北海道(帯広)	北海道(道東)	TEL : 0155 (35) 1210 FAX : 0155 (35) 1250	jicaobic@jica.go.jp	〒080-2470 北海道帯広市西20条南6-1-2
JICA 東北	青森県・岩手県・宮城県・ 秋田県・山形県・福島県	TEL : 022 (223) 4772 FAX : 022 (227) 3090	jicathic-jv@jica.go.jp	〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台第一生命タワービル20階
JICA 筑波	茨城県・栃木県	TEL : 029 (838) 1117 FAX : 029 (838) 1119	jicatbic@jica.go.jp	〒305-0074 茨城県つくば市高野台3-6
JICA 東京	群馬県・埼玉県・千葉県・ 東京都・新潟県・長野県	TEL : 03 (3485) 7461 FAX : 03 (3485) 7025	tictpp1@jica.go.jp	〒151-0066 東京都渋谷区西原2-49-5
JICA 横浜	神奈川県・山梨県	TEL : 045 (663) 3253 FAX : 045 (663) 3265	yictpp@jica.go.jp	〒231-0001 神奈川県横浜市中区新港2-3-1
JICA 北陸	富山県・石川県・福井県	TEL : 076 (233) 5931 FAX : 076 (233) 5959	jicahric@jica.go.jp	〒920-0853 石川県金沢市本町1-5-2 リファール オフィス棟4階
JICA 中部	静岡県・岐阜県・愛知県・ 三重県	TEL : 052 (533) 0220 FAX : 052 (564) 3751	cbictpp@jica.go.jp	〒453-0872 愛知県名古屋市中村区平池町4-60-7
JICA 関西	滋賀県・京都府・大阪府・ 兵庫県・奈良県・和歌山県	TEL : 078 (261) 0352 FAX : 078 (261) 0357	jicaksic-jocv@jica.go.jp	〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
JICA 中国	鳥取県・島根県・岡山県・ 広島県・山口県	TEL : 082 (421) 6305 FAX : 082 (420) 8082	jicacac-jocv@jica.go.jp	〒739-0046 広島県東広島市鏡山3-3-1 ひろしま国際プラザ内
JICA 四国	徳島県・香川県・愛媛県・ 高知県	TEL : 087 (821) 8825 FAX : 087 (822) 8870	jicaskic@jica.go.jp	〒760-0028 香川県高松市鍛冶屋町3番地 香川三友ビル1階
JICA 九州	福岡県・佐賀県・長崎県・ 熊本県・大分県・宮崎県・ 鹿児島県	TEL : 093 (671) 6311 FAX : 093 (671) 0979	jicakic@jica.go.jp	〒805-8505 福岡県北九州市八幡東区平野2-2-1
JICA 沖縄	沖縄県	TEL : 098 (876) 6000 FAX : 098 (876) 6014	oictpp@jica.go.jp	〒901-2552 沖縄県浦添市字前田1143-1

■ 青年海外協力隊訓練所

名称	TEL・FAX	e-mail	所在地
二本松青年海外協力隊訓練所	TEL : 0243 (24) 3200 FAX : 0243 (24) 3214	jicanjv-bk@jica.go.jp	〒964-8558 福島県二本松市永田字長坂4-2
駒ヶ根青年海外協力隊訓練所	TEL : 0265 (82) 6151 FAX : 0265 (82) 5336	jicakjv-jocv@jica.go.jp	〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15

クロスロード

発行日 2023年2月

編集・発行：独立行政法人国際協力機構
青年海外協力隊事務局
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-4-1 竹橋合同ビル制作協力：一般社団法人協力隊を育てる会「クロスロード」編集室
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-28-7 昇龍館ビル2階
ロゴタイプデザイン・誌面デザイン：(株)AND
印刷・製本：弘報印刷(株) 校正：佐藤智也見やす・読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。